

令和 8（2026）年度 第 1 回 水工学委員会および幹事会

日 時：令和 8 年 6 月 2 日（火）15：00 から

場 所：オンライン（Zoom）

URL: <https://us06web.zoom.us/j/81784412378?pwd=JQSPVjsJALyTqOcaCfxW50ajX0kQwL.1>

ミーティング ID: 817 8441 2378

パスコード: 974629

0. 田中委員長挨拶

《報告事項》

1. 令和8年度水工学委員会構成（幹事長） 資料1-1, 1-2
2. 令和8年度の年間スケジュール（幹事長） 資料2-1, 2-2
3. 令和8年度水工学に関する夏期研修会（金沢大学，谷口委員） 資料3
4. 第30回水シンポジウム2026 in とくしま（長田委員） 資料4
5. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画
 - 部 会： 河川部会（堀江委員） 資料5-1
 - 環境水理部会（新谷委員（代理：幹事長）） 資料5-2
 - 水文部会（市川委員） 資料5-3
 - 基礎水理部会（溝口委員） 資料5-4
 - 研究小委員会： 水理・水文統計解析研究小委員会（風間委員） 資料5-5
 - 河川観測技術高度化研究小委員会（手計委員）
 - 関連委員会： グローカル気候変動適応研究小委員会（渡部委員） 資料5-6
 - 水工学オンライン小委員会（山口委員） 資料5-7
 - 水害対策小委員会（竹林委員） 資料5-8
 - 減災・防災委員会（竹林委員） 資料5-9
 - 河川懇談会（二瓶委員） 資料5-10

基礎水理部会，河道管理研究小委員会，流域管理と地域計画の連携，水理公式集編集小委員会，土木学会論文集編集委員会，IAHR Japan Chapter，環境システム委員会，沿岸域気候変動，地球環境委員会，ISO/TC113小委員会，ISO対応，出版委員会，海岸工学委員会，インフラ体力委員会，インフラメンテナンス関係委員会，
6. 令和7年度水工学委員会の活動評価（幹事長） 資料6
7. その他

《協議事項》

1. 研究小委員会（水工学のための AI・DX 研究小委員会）の設置について（竹林委員） 協議資料 1
2. 令和 8 年度土木学会論文集特集号（水工学）査読・編集作業等（山田編集幹事長） 協議資料 2
3. 令和 8 年度第 71 回水工学講演会について（北九州，矢野委員） 協議資料 3
4. 令和 9 年度第 72 回水工学講演会について（鳥取，三輪先生） 協議資料 4
5. 令和 9 年度水工学に関する夏期研修会について（岩手，川越委員） 協議資料 5
6. 令和 9 年度水シンポジウムについて（三重，幹事長・武田委員） 協議資料 6
7. 令和 8 年度の水工学委員会の予算について（幹事長） 協議資料 7
8. その他

2025-2026年度 水工学委員会委員 名簿

2026/6/2現在

NO.	氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事
1	田中 規夫	埼玉大	委員長	専門1	
2	戸田 祐嗣	名古屋大	幹事長	専門2	
3	山田 朋人	北海道大	編集幹事長	専門3	
4	佐山 敬洋	京大防災研	前幹事長	専門4	委員兼幹事
5	小田 僚子	千葉工大	前編集幹事長	専門5	委員兼幹事
6	溝口 敦子	名城大	基礎水理部会長, 元編集幹事長, 河道管理研究小委員会幹事長	専門6	委員兼幹事
7	瀬戸 心太	長崎大	水文部会副部会長	専門7	
8	新谷 哲也	東京都立大	環境水理部会長	専門8	委員兼幹事
9	入江 政安	大阪大	海岸工学委員会への派遣委員	専門9	
10	風間 聡	東北大	水理・水文統計解析研究小委員会委員長	専門10	委員兼幹事
11	長田 健吾	阿南高专	水シンポ2026開催候補地	専門11	委員兼幹事
12	矢野 真一郎	九州大	元幹事長、2026水工学講演会、2025夏期研修会	専門12	
13	大槻 順朗	山梨大	水シンポ2025開催地	専門13	委員兼幹事
14	中山 恵介	神戸大		専門14	
15	大原 美保	東大		専門15	
16	田端 幸輔	国総研		専門16	
17	川村 里実	寒地土研		専門17	
18	岩崎 理樹	北大	水工ML	北海道1	委員兼幹事
19	吉川 泰弘	北見工大		北海道2	
20	梅田 信	日本大学工学部	水工ML, 水工学講演会(福島大会)担当	東北1	委員兼幹事
21	川越 清樹	福島大	水工学講演会(福島大会)担当, 2027夏期研修会	東北2	
22	二瓶 泰雄	東京理科大	河川懇談会幹事長	関東1	委員兼幹事
23	鼎 信次郎	東京科学大	元編集幹事長	関東2	
24	小林 健一郎	埼玉大	グローバル小委員会委員長、水理・水文統計解析研究小委員会幹事長、IHAR Japan Chapter委員	関東3	委員兼幹事
25	宮本 仁志	芝浦工大	元編集幹事長	関東4	
26	芳村 圭	東大		関東5	
27	手計 太一	中央大	河川観測高度化研究小委員会委員長	関東6	委員兼幹事
28	小澤 盛生	国交省・河川計画課河川計画調整室長		関東7	
29	瀬崎 智之	国総研		関東8	
30	秦 夢露	土木研究所		関東9	
31	佐藤 隆宏	電中研		関東10	
32	一言 正之	日本工営		関東11	
33	荒木 千博	建設技術研究所		関東12	
34	松田 浩一	パシフィックコンサルタンツ		関東13	
35	中村 要介	三井共同建設コンサルタント		関東14	
36	堀江 克也	いであ	河川部会長	関東15	委員兼幹事
37	武田 誠	中部大	水シンポ2027開催地	中部1	
38	谷口 健司	金沢大	2026夏期研修会（海岸主担当、金沢（榎田先生））	中部2	委員兼幹事
39	原田 守啓	岐阜大		中部3	
40	市川 温	京大	水文部会長, 流域管理と地域計画連携方策研究小委員会委員長	関西1	委員兼幹事
41	川池 健司	京大防災研	IAHR Japan chapter幹事長	関西2	
42	竹林 洋史	京大防災研	水害対策小委員会委員長	関西3	委員兼幹事
43	大石 哲	神戸大	IAHR Japan chapterVice Chair	関西4	
44	山上 路生	京大		関西5	委員兼幹事
45	山口 弘誠	京大防災研	水工オンライン委員長	関西6	
46	赤穂 良輔	岡山大		中国1	
47	内田 龍彦	広島大	2027水工学講演会（開催地・鳥取（三輪先生））	中国2	委員兼幹事
48	渋尾 欣弘	高知大	水工オンライン副委員長	四国1	委員兼幹事
49	渡部 哲史	九州大	2025夏期研修会	西部1	委員兼幹事
50	重枝 未玲	九工大	HP担当、2026水工学講演会	西部2	

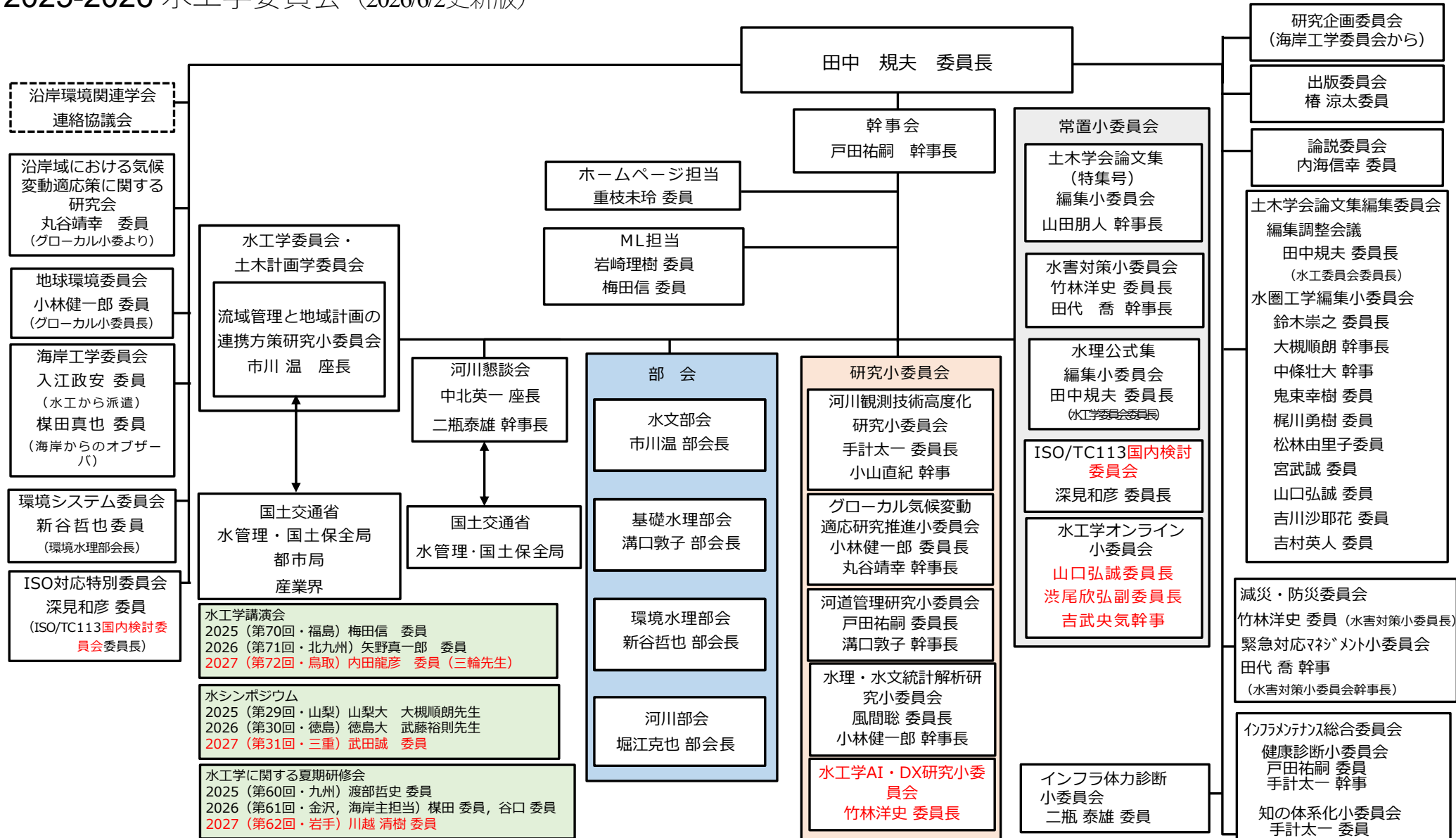
オブサーバ

榎田 真也	金沢大学	海岸工学委員会からの交流委員, 2026夏期研修会
深見 和彦	河川情報センター	ISO/TC113国内検討委員会委員長, ISO対応特別委員会

顧問

中川 一	京大防災研
寶 馨	京大防災研
中北 英一	京大防災研
清水 康行	北海道大学
清水 義彦	群馬大
立川 康人	京都大学

2025-2026 水工学委員会 (2026/6/2更新版)



2026 年度スケジュール (R8.6.2 現在)

資料 2

	水工学委員会, 編集小委員会	部会, 小委員会	その他 (共催)
2026 年 4 月		4/21-22 河川観測高度化研究小委員会・合 同流量観測 (信濃川水系魚野川) 4/23 水害対策小委員会・河川災害シンポ (土木学会講堂) (H)	
5 月	5/20 第一回編集小委員会(O) 5/27 土木学会論文集特集号 (水工学) 投稿締切	5/13 水文部会・レーダ雨量計 60 周年記念 シンポジウム (東大伊藤謝恩ホール)	
6 月	6/2 第一回水工学委員会(O) 6/5 第一回編集小委員会幹事会(O) 6/5~15 第二回編集小委員会(M)	6/18-19 河川部会・河川シンポジウム(H) 6/20 河川観測高度化研究小委員会・河川観 測高度化シンポジウム (中央大学後楽園キ ャンパス)	
7 月	7/9~15 第三回編集小委員会(M)		
8 月	8/27-28 水工学に関する夏期研修会 @金沢大学角間キャンパス		
9 月	9/18~ 第四回編集小委員会(M)	8/31-9/4 土木学会全国大会 (北海学園大 学) 9/28-10/2 ISO/TC113 第 33 回定期総会 (土 木学会講堂他) (H)※9/29PM は IWA50・ ISO/TC113 合同ワークショップを予定	
10 月	10/27-28 水シンポジウム in とくしま (執行部+河川部会)		
11 月			
12 月	11/30-12/2 第 71 回水工学講演会@ 北九州 11/30 第二回水工学委員会	水工学講演会期間中 グローカル小委員 会・アゲールシンポ, 河川懇談会	
2027 年 1 月			
2 月			
3 月	3/?? 第三回水工学委員会(O)	3/?? 基礎水理シンポジウム	
4 月		水害対策小委員会・河川災害シンポ	
5 月	5/??水工学論文集締切		

注: (M)はメール審議, (O)はオンライン開催, (H)はハイブリッド開催.

2027 年度スケジュール

6 月頃 河川シンポ (土木学会講堂・オンライン併用)

8 月頃 夏期研修会 (水工学担当: 岩手)

10~11 月頃 水シンポ in みえ

12 月 8 日~10 日 (暫定) 第 72 回水工学講演会 (鳥取)

2026/6/2

水工学講演会				水工学に関する夏期研修会				水シンポジウム			
水工	研修	シンポ		北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
回	回	回	年								
	28		1992			東京					
38	29		1993		秋田	中央大					
39	30		1994			中央大		大阪			
40	31		1995	北見		中央大					
41	32	1	1996			中央大				山口 鳥取	
42	33	2	1997					兵庫	徳島	鳥取	
43	34	3	1998		福島		名古屋	立命館大			
44	35	4	1999		日大	東京					北九州
45	36	5	2000			東工大 東京					熊本
46	37	6	2001		山形		名工大 富山				
47	38	7	2002	札幌		早稲田大		京都			
48	39	8	2003						愛媛	岡山	熊本大
49	40	9	2004	釧路		国士館大				広島	
50	41	10	2005					京都大 大阪	愛媛		
51	42	11	2006		宮城	法政大	岐阜				
52	43	12	2007				愛知			広島大	福岡
53	44	13	2008			芝浦工大 東京 千葉					
54	45	14	2009	北大	郡山		新潟				
55	46	15	2010			東大生研		神戸			福岡
56	47	16	2011					京都	愛媛大	広島	
57	48	17	2012	札幌			名城大 岐阜				
58	49	18	2013				名古屋	神戸大	高知		
59	50	19	2014			早稲田大					北九州 長崎
60	51	20	2015		東北工大	東京		福井			
61	52	21	2016		秋田					山口	九州大
62	53	22	2017					大阪		岡山大	沖縄
63	54	23	2018	北大			静岡			山口	
64	55	24	2019			埼玉大	名古屋	滋賀			
65			2020								
66	56	25	2021			群馬	富山県大		高知		
67	57	26	2022		山形	東京			愛媛大		
68	58	27	2023	札幌				大阪 大阪			佐賀
69	59	28	2024				富山 長野				
70	60	29	2025		福島	山梨					九州大
71	61	30	2026				石川(金沢)		徳島		北九州
72	62	31	2027		岩手		三重			鳥取	
73	63	32	2028								
74	64	33	2029								
75	65	34	2030								

水シンポ 夏期研修会
担当部会
河川
環境水理
基礎水理

水文
河川
環境水理
基礎水理

水文
河川
環境水理
基礎水理

延期
水文
河川
環境水理
基礎水理

水文
河川
環境水理
基礎水理

全国大会

日大	関東
大阪大	関西
岡山大	中国
東北大	東北
九大	西部
北大	北海道
香川大	四国
中部(オンライン)	中部
神奈川(平塚, 東海大)	関東
京都大	関西
広島大	中国
東北大	東北
熊本大	西部
	北海道
	四国
	中部
	関東

海岸
水工
海岸
延期
水工
海岸
水工
海岸

水工
海岸
水工
海岸

未水 開シ 催ン 県ボ		岩手県	茨城県	三重県	奈良県	香川県	島根県	大分県
		秋田県	栃木県	石川県	和歌山県		岡山県	宮崎県
		青森県	埼玉県					鹿児島県
			神奈川県					

第6 1 回水工学に関する夏期研修会 準備状況_2026.6.1

日程：2026年8月27日（木）・28日（金）

場所：金沢大学角間キャンパス 自然科学本館・大講義棟

開催形式：対面＋録画によるオンデマンド（視聴期間 1 カ月程度）

参加定員：Aコース120名，Bコース120名

現地参加数の制限（各コース70名程度）

参加費：現地 一般16000円，学生10000円（前回同様）

オンデマンド 一般18000円，学生12000円（前回同様）

交流会：講師・参加者の昼食会（別費用徴収）申込後連絡予定

担当者：Aコース：谷口（金沢大），バセル（金沢大）

Bコース：樫田（金沢大），由比（金沢大）

学生アルバイト（会場準備，誘導など）：金沢大で手配

土木学会（事務局）：杉野さん（研究事業化）

テーマ：頻発・激甚化する流域・沿岸災害に関する調査・解析と防災を考える

日時		Aコース	Bコース
8月 27日 (木)	9:00-10:30 (共通)	佐山敬洋先生（京都大学） 水災害予測を目的とした降雨流出・洪水氾濫の統合解析	
	10:45-12:15 (共通)	知花武佳先生（政策研究大学院大学） 流域の特徴を俯瞰した流域治水に向けて	
	13:15-14:45 (コース別)	柏田仁先生（東京理科大学） Social Sensingによる激甚水害時の氾濫 流動実態解明～あらゆる関係者の協働に よるモニタリングの萌芽～	鳴原良典先生（防衛大学） 非地震性津波ハザード評価の現状と課題 ～海底地すべり津波の解析から 実務への適用まで～
	15:00-16:30 (コース別)	武田誠先生（中部大学） 都市域における浸水過程と車両および 人の動きの数値解析	高川智博先生（港湾空港技術研究所） アジョイント津波解析
8月 28日 (金)	9:00-10:30 (共通)	越村俊一先生（東北大学） 海岸・海洋デジタルツインの開発と展望	
	10:45-12:15 (共通)	豊田将也先生（豊橋科学技術大学） 高潮・洪水による複合災害解析とその適用例	
	13:15-14:45 (コース別)	呉修一先生（富山県立大学） 流域治水の現状と課題～コンパクトシ ティや都市計画との融合に向けて～	二宮順一先生（金沢大学） 爆弾低気圧による沿岸災害と その将来変化予測
	15:00-16:30 (コース別)	久田嘉章先生（工学院大学） 土木・建築連携による 水害・土砂災害対策の取り組み	中條壮大先生（大阪公立大学） 多数の台風シナリオを用いた 災害リスク評価に関する課題と試み

会場：金沢大学角間キャンパス南地区 自然科学本館・大講義棟

交通：バスで45分程度（金沢駅～金沢大学自然研前）



コース共通：AV講義室

Aコース：105講義室

Bコース：107講義室



収支計画：2025年九州大学開催時の試算資料を参考とした (交流会費用は含まない)

- ・ 2025年の参加人数：現地98＋オンデマンド111＝199名
- ・ 2026年の参加想定：2025の65％（現地70名＋オンデマンド60名＝130名）

収入		支出	
参加費（現地・一般）16,000*50	800,000	会場使用料	135,000
参加費（現地・学生）10,000*20	200,000	講師謝金 45,000*12	540,000
参加費（オンデマンド・一般） 18,000*50	900,000	講師旅費 55,000*10 その他旅費 60000	610,000
参加費（オンデマンド・学生） 12,000*10	120,000	弁当・バイト，バス増便など諸 経費	129,000
		学会手数料（収入の3割）	606,000
	2,020,000		2,020,000

バス増便：

2日間とも他学会が同じ建物で開催（日本エアロゾル学会，200名）

バス混雑（朝7時半～9時）が予想→増便2便の予定

乗り場：金沢駅兼六園口（東口）8番乗り場発

[93][94][97]金沢大学行き（兼六園下経由）金沢大学自然研前下車

今後の準備（現地担当者）：

- 6月
 - ・ CPDプログラムの申請
 - ・ 参加申込Webページの準備
 - ・ 各委員会HPやMLでの案内（第一報）
- 7月
 - ・ テキスト編集作業
 - ・ 参加申込受付開始をMLで周知（第二報）
 - ・ 「ちょっとだけなか見」作成とMLで周知（第三報）
- 8月
 - ・ 申込締切前にMLで最終案内（第四報）
 - ・ 参加者連絡（テキスト配布，交流会，バス，オンデマンド）
 - ・ 当日業務確認（担当者，事務局，学生アルバイト）
 - ・ オンデマンド用映像の撮影準備
 - ・ 8/27-28開催
- 9月
 - ・ オンデマンド映像の視聴準備
 - ・ オンデマンド参加者連絡

第30回水シンポジウム2026 in とくしま 第3回実行委員会 議事録

日時：2026 年 5 月 22 日 15:00～16:10

会場：オンライン会議

参加者(敬称略)：田中委員長，戸田幹事長，武藤先生，上月先生，田村先生，高橋先生，湯城先生，堀江河川部会長，松山調査官，山本所長，清水所長，前田部長，国交省四国地方整備局，徳島河川国道事務所，那賀川河川事務所，徳島県事務局，徳島市，長田

1. 開会

2. 議題

(1) 実行委員及び事務局員名簿【資料1】

国交省，徳島県，徳島市の人事異動に伴い，委員交替があることを報告した。

(2) シンポジウム企画構成について【資料2】

講演者の選定が終了したことを報告した。安永所長が異動となり，トップバッターで講演されることが困難となったことから，武藤先生（徳島大学）が最初に15分程度，徳島の治水に関わる話題（流域治水や“治水の上に利水がなりたつ”に関連）を提供され，吉野川，那賀川の話に繋がるように設定したことを伝えた。

第一部

- ・徳島大学 武藤教授
- ・徳島河川国道事務所 安永所長（吉野川の治水事業・産業の歴史）
- ・香川大学 野本特命教授（那賀川の事業を中心に話題提供）

第二部

- ・新潟大学 河口教授（鳥類・魚類）
- ・とくしまコウノトリ基金 柴折史昭事務局長
（吉野川・那賀川流域でコウノトリ等の保護活動に携わっている団体）
- ・那賀川アフターフォーラム 中村貴志会長
（那賀川の上下流を繋ぐ活動をしている団体）
- ・新町川を守る会 川上さん（高校3年生）
（吉野川水系新町川の魅力向上の取り組みに従事）

パネルディスカッション司会：武藤教授

第二部の講演順はこれから調整。川上さんが高校生であるため，緊張しないように，また授業との兼ね合いなども含め，発表順を調整する。また，全講演者のタイトル，発表内容について今後聞き取りを行う。第2部にも明確に質問時間を設け，時間調整も兼ねてパネルディスカッションの時間を5分延長した。終了時刻が17時40分となった。

(3) 懇親会について【資料3】

新町川を守る会のクルーズ船着き場で実施することが決定した。酒類は田村先生協力のもと、地元のお酒を収集していることを報告した。ビールは会場にビールサーバがあるため、それを活用する。その他飲料は、徳島県事務局の方で準備する。会費5000円程度で、どの程度の食事を提供できるかについて、新町川を守る会に確認する。

(4) ポスターデザインについて【資料4】

ポスターデザインは案1で決定（ただし講演者が7名となったため、配置は変更が必要）、背景画像は案1で決定した。ポスターは明るい雰囲気として案1が選ばれた。写真は、吉野川に古くから架かる吉野川橋と眉山が写り、徳島を象徴する画としてよいのではといった意見が出た。

(5) 資料配布用トートバックについて【資料5】

資料を配布する際に利用するトートバックの見積もり案を3点提示した。案2の不織布で決定した。

(6) 予算について【資料6】

河川基金、防災研究協会、四国クリエイト協会助成金について、全て予算申請どおり採択されたことを報告した。ブース代は、例年の状況を鑑み、30,000円を徴収することとした（学校や講演者関連からは徴収しない方針とした）。

ブース展示用の部屋が必要であることを確認した。また、控室が2部屋必要であることも確認した。事務局の方で部屋の状況などを確認する。今後、どの程度の部屋を借りるかを決定し、会場代を確定する必要がある。

講演謝礼についても、金額はまだ決まっていない。

(7) 今後のスケジュールについて【資料7】

今後のスケジュールを提示して、説明を行った。今後は主に事務局会議で意見交換を行い、準備を進めることを確認した。

(8) その他

ブース・ポスターへの出展について、学校関係の意向を確認した。香川高専からブース1点とポスター数件を出展。徳島大学からも何件かポスターを出展。企業にも声掛けを行う。ポスターの内容は、河川、防災、海岸、環境と幅広くてもよいことを確認。

現地見学会について、全参加者が藍染体験を時間内に実施できるように調整を行う。広報開始は7月中旬を目途に始める。

「第30回水シンポジウム2026 in とくしま」

第3回実行委員会

日時：令和8年5月22日（金）15時00分～

場所：WEB会議

次 第

1 開会

2 議題

- | | |
|--------------------|-------|
| （1）実行委員及び事務局員名簿 | 【資料1】 |
| （2）シンポジウム企画構成について | 【資料2】 |
| （3）懇親会について | 【資料3】 |
| （4）ポスターデザインについて | 【資料4】 |
| （5）資料配布用トートバックについて | 【資料5】 |
| （6）予算について | 【資料6】 |
| （7）今後のスケジュールについて | 【資料7】 |
| （8）その他 | |

3 閉会

「第30回水シンポジウム2026 in とくしま」 実行委員会規約

（名 称）

第1条本会は、「第30回水シンポジウム2026 in とくしま」実行委員会（以下、「実行委員会」という。）と称する。

（目 的）

第2条実行委員会は、「第30回水シンポジウム2026 in とくしま」（以下、「水シンポジウム」という。）の円滑かつ効果的な開催を図ることを目的とする。

（実行委員会）

第3条実行委員会は、水シンポジウムの開催及び運営に関する企画事項の決定を行うものとし、実行委員は別表1に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

- 2 実行委員長は、土木学会水工学委員会委員長の職にある者をもって充てる。
- 3 実行委員長は、会務を総括し、実行委員会を代表する。
- 4 実行委員会には、顧問を置くことができる。
- 5 顧問は、実行委員会の活動に際し、指導と助言を行うものとする。
- 6 実行委員会の会議は、実行委員長が招集するものとし、会議の議長は実行委員長が務める。ただし、実行委員長に事故等のあるときは、あらかじめ実行委員長が指名する実行委員がその職務を代行する。
- 7 実行委員長が必要と認めたときには、実行委員長の指名した者を実行委員に追加・変更することができる。

（事務局）

第4条実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局員は別表2に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。
- 3 事務局長は、徳島県県土整備部河川政策課長の職にある者をもって充てる。
- 4 事務局長が必要であると認めたときには、事務局長が追加・変更した者を事務局が行う会議に参加させることができる。
- 5 事務局は、徳島県県土整備部河川政策課に置く。

（経 費）

第5条実行委員会の経費は、分担金その他の収入をもって充てる。

- 2 経費の精算は、事業終了後に行う。

(監 事)

第6条監事は、実行委員会の会計を監査するものとし、四国地方整備局徳島河川国道事務所長の職にある者をもって充てる。

(任 期)

第7条実行委員、顧問、監事の任期は、この実行委員会が解散するまでとする。

(その他)

第8条この規約に定めるもののほか、水シンポジウムの開催に関し必要な事項は、実行委員会に諮り、実行委員会の委員長がこれを定める。

附則この規約は、令和7年10月28日から施行する。

「第30回水シンポジウム2026 in とくしま」実行委員及び事務局員名簿

2026/5/22時点

別表1 実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会水工学委員会	委員長	田中規夫	埼玉大学
	土木学会水工学委員会	幹事長	戸田祐嗣	名古屋大学
	土木学会水工学委員会	河川部会長	堀江克也	
	徳島大学大学院	教授	武藤裕則	
	阿南工業高等専門学校	准教授	長田健吾	
	四国地方整備局	河川調査官	松山芳士	
	四国地方整備局徳島河川国道事務所	所長	山本浩之	
	四国地方整備局那賀川河川事務所	所長	清水敦司	
	徳島県県土整備部	部長	小津慶久	
	徳島市都市建設部	部長	前田充弘	

別表2 事務局（◎事務局長）

	機関名	役職名	氏名	備考
	土木学会水工学委員会	幹事長	戸田祐嗣	名古屋大学
	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	教授	武藤裕則	
	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	教授	鎌田磨人	
	徳島大学環境防災研究センター	教授	上月康則	
	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	准教授	田村隆雄	
	徳島大学環境防災研究センター	准教授	山中亮一	
	香川高等専門学校建設環境工学科	准教授	高橋直己	
	(同)ACEネット研究所(阿南工業高等専門学校名誉教授)		湯城豊勝	
	阿南工業高等専門学校創造技術工学科	准教授	長田健吾	
	四国地方整備局河川計画課	課長	日下部包	
	四国地方整備局河川計画課	専門官	三國宣仁	
	四国地方整備局河川計画課	係長	鎌田祐輝	
	四国地方整備局徳島河川国道事務所	副所長	佐藤英人	
	四国地方整備局徳島河川国道事務所	事業対策官	梶本泰司	
	四国地方整備局徳島河川国道事務所	課長	林田拓都	
	四国地方整備局徳島河川国道事務所	専門員	松島輝将	
	四国地方整備局那賀川河川事務所	副所長	南本秀行	
	四国地方整備局那賀川河川事務所	課長	濱井宣明	
	四国地方整備局那賀川河川事務所	係長	落合政志	
◎	徳島県県土整備部河川政策課	課長	披田 毅	
	徳島県県土整備部河川政策課	副課長	前島篤史	
	徳島県県土整備部河川政策課	課長補佐	池上宜伸	
	徳島県県土整備部河川政策課	係長	山本健介	
	徳島県県土整備部河川政策課	主事	西 幹太	
	徳島市都市建設部河川水路課	課長	大島 徹	

日程・会場について

2025/10/28時点

【日程】

開催日は、**令和8年10月27日（火）～10月28日（水）〔2日間〕**とする。

- ・令和8年10月27日（火）午後 シンポジウム（対面形式）
- ・令和8年10月27日（火）夜 懇親会
- ・令和8年10月28日（水）現地見学会

※台風シーズンおよび水工学関連行事を避けられる期間として10月下旬～11月初旬を開催候補とし、シンポジウム運営に携わる関係者の予定、下記会場の空き状況を考慮して、本日程を選定しました。

【会場】

会場は、**あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）**とする。

会場の概要

- ・ホール収容定員 809席（ホール図面：https://kyoubun.or.jp/pdf/f1_2.pdf）
- ・控え室用の楽屋8室（洋室・和室），会議室6室あり（必要に応じて予約）
- ・主催者用の駐車場15～20台程度あり

※過去のシンポジウム会場の状況を考慮し、500人程度の収容力を持ち、徳島市内に立地するホールを条件に選定しました。徳島市内でこれら条件を満たすホールは、現状あわぎんホールのみとなり、本ホールは駅近くであり、周辺ホテルへのアクセスも良好であることから、最適な会場と判断しました。

住所

〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目1-4

アクセス

- ・JR徳島駅から 徒歩約10分
- ・徳島阿波おどり空港から タクシー・徳島空港バス（徳島駅前行き）で約30分
- ・車で来場の場合、周辺に有料駐車場あり



写真 あわぎんホールの概要

出典：<https://kyoubun.or.jp/bunka/index.html>

<https://www.tokushima-mice.jp/jpn/facilities/awagin>

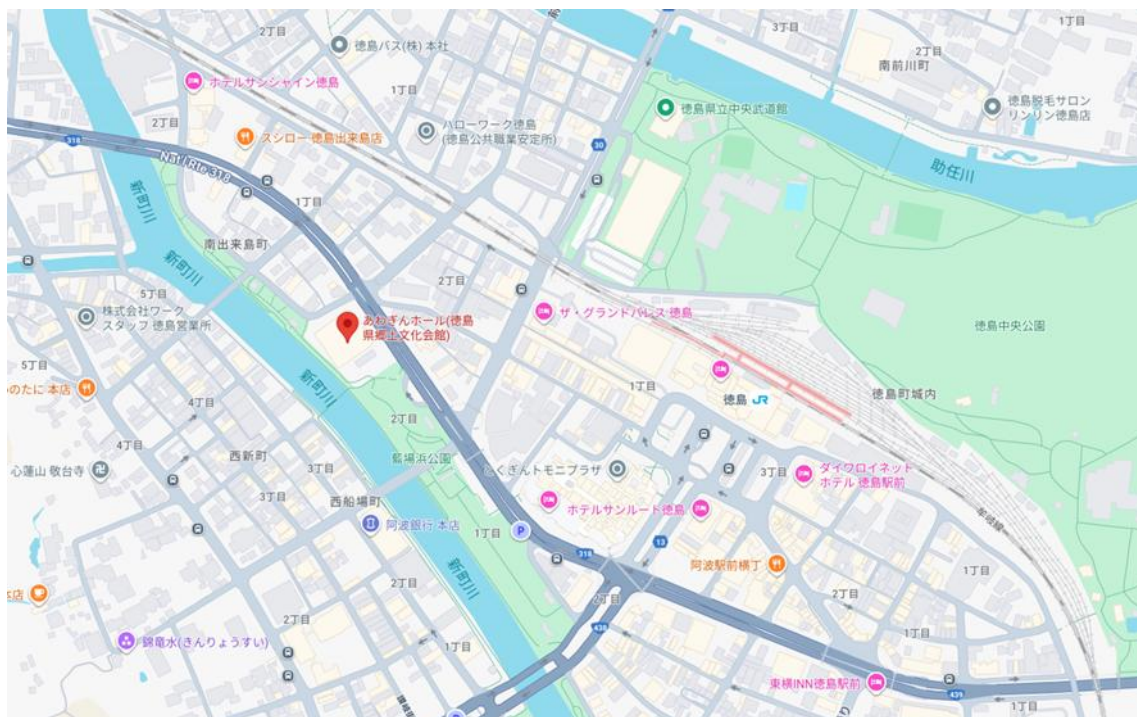


図 あわぎんホールの位置

メインテーマについて

2025/10/28時点

【シンポジウムの内容】

「水シンポジウム2026 in とくしま」では、徳島県内を流れる吉野川、那賀川の2河川を対象として講演内容を設定したいと考えています。吉野川は、四国一の規模を誇る河川であり、日本三大暴れ川の1つ「四国三郎」として全国的に知られています。流域住民は、長い歴史の中で洪水と戦いながら多くの治水事業を進め、川の流れをコントロールすることで生活の場を築いてきました。吉野川のもたらす豊かな水は四国4県で利活用され、新たな産業の発展と恵まれた自然環境をもたらし、街ににぎわいを産む源となっています。一方、那賀川は、日本でも有数の急勾配河川かつ豪雨地帯であり、山地からの活発な土砂生産により下流域に扇状地が形成されてきました。吉野川と同様、多くの治水事業により川をコントロールし、川のもたらす恵みにより流域の街が発展してきました。これら2河川の歴史と文化、街の発展、自然環境などをテーマに、講演内容を考えていければと思います。

【メインテーマ】

メインテーマは、

「悠久の大河と歩む阿波の“刻”が語る

～治水の功がもたらす恵みと未来への想い～」

とする。

メインテーマの設定意図

吉野川・那賀川を表す語句として「悠久の大河」を選定しました。地名を徳島ではなく「阿波」とすることで、また、「“刻”が語る」といった表現を組み込むことで、治水・利水の長い歴史があり現代へその状況が続いていることを感じ取ってもらえるようにしました。副題は、徳島がこれまで培ってきた「治水の上に利水が成り立つ」の想いをもとに「治水の功がもたらす恵み」としました。治水事業によって川をコントロールすることで利水・環境といった生活の恩恵に繋がっているといった表現となります。シンポジウムは徳島より全国に情報発信するという意味もあるため、「未来への想い」を付しています。

シンポジウム企画構成について

2026/5/22時点

【シンポジウムのプログラム】（案）

令和8年10月27日（火）午後

12:00 受付開始

13:00 開会 ※挨拶（実行委員長，国交省，徳島県，徳島市？）

13:30 講演1 武藤裕則 徳島大学大学院教授 (15 分)

13:45 講演2 安永一夫 四国地整技術調整管理官 (30 分) 吉野川関連

14:15 講演3 野本粹浩 香川大学特任教授 (30 分) 那賀川関連

※質疑 (5分)

14:50 休憩 【展示見学】 (20 分)

15:10 講演4 川上うた NPO法人新町川を守る会 (15 分)

15:25 講演5 柴折史昭 認定NPO法人とくしまコウノトリ基金事務局長 (15 分)

15:40 講演6 河口洋一 新潟大学教授 (15 分)

15:55 講演7 中村貴志 那賀川アフターフォーラム会長 (15 分)

※質疑 (5分)

16:15 休憩 【展示見学】 (20 分)

16:35 パネルディスカッション (45 分)

17:20 総括【田中委員長】 (10 分)

17:30 次回開催県挨拶【三重県】 (10 分)

17:40 閉会

第二部の講演順はこれから

◇ パネルディスカッション

司会：徳島大学 武藤教授

現地見学会について

2026/3/10時点

◇ 日程案

令和8年10月28日（水）

9:00 徳島駅発

見学

12:00 昼食

見学

16:00 徳島駅解散

※徳島発飛行機（令和8年3月現在）

東京行

JAL 17時半ごろ、20時半ごろ

ANA 19時半ごろ

福岡行

JAL 20時ごろ

◇ 受け入れ人数

最大50名想定

◇ バス

国交省マイクロバス3台（定員20名）

◇ 見学日程（徳島河川国道事務所案）

■日時：令和8年10月28日（水）9時から16時 ※車移動の方は、徳島地方合同庁舎集合

■参加者：〇〇（最大50名を想定）

■テーマ：四国三郎吉野川 治水の功がもたらす恵み

行程		備考
8:45	集合（徳島地方合同庁舎）	
(0:10)		
9:00	発 徳島駅	
(0:15)		
9:15	着 ①吉野川河口	河口干潟
(0:15)		
9:30	発	
(0:20)		
9:50	着 ②第十樋門	旧吉野川への分流
(0:15)		※降車場は旧吉野川堤防沿or操作室敷地内
10:05	発	
(0:10)		
10:15	着 ③印石	洪水遺産
(0:15)		※駐車場は石井町公民館藍畑分館を想定
10:30	発	（要使用許可）
(0:20)		
10:50	着 ④田中家	洪水遺産
(0:30)		（トイレ休憩）
11:20	発	
(0:10)		
11:30	着 ⑤愛宕地蔵	洪水遺産
(0:15)		※降車場所は堤防脇、駐車場は高瀬橋手前で検討
11:45	発	
(0:05)		
11:50	着 ⑥石井防災ステーション	弁当を注文
(1:00)		（トイレ休憩）
12:50	発 昼食	
(0:10)		
13:00	着 ⑦第十堰	旧吉野川分流、新川掘り抜き工事
(0:20)		※神宮入江排水機場付近で駐車
13:20	発	
(0:20)		
13:40	着 ⑧自然再生事業	津慈地区（コウノトリ）
(0:15)		
13:55	発	
(0:20)		
14:15	着 ⑨藍の館	藍染めの歴史
(1:00)		（トイレ休憩）
15:15	発	
(0:40)		
※時間の都合上、新町川クルーズは希望者のみ（徳島駅希望者と2班に分かれる）		
15:55	着 ⑩新町川クルーズ	水辺利用の取組
(1:00)		※全員1回では乗船できないため、適宜解散
16:55	発	
(0:15)		
15:55	着 ※藍の館→徳島駅	
17:10	着 ※新町川クルーズ→徳島駅	
(0:10)	徳島駅	

懇親会について

2026/5/22時点

- ◇ 日程
令和8年10月27日（火）
19:00～21:00
- ◇ 人数（案）
50名程度を想定
- ◇ 参加費（案）
5000円程度を想定
- ◇ 開催場所
ひょうたん島クルーズ乗船場（新町川を守る会）



◇ ポスターデザイン案2

表面



裏面



お問い合わせ

.....

参加お申し込み

ホームページの申し込みフォーム、または、下記ご記入の上、
FAX か郵送にて事務局宛にお申し込みください。

0-45-1211-56

締切

シンポジウム ●月●日(●)
懇親会・現地見学会 ●月●日(●)

※受付は先着順となります。
※定員に達し次第、締め切らせていただきます。

参加申込書 FAX : 088 - ●●●● - ●●●●

出席されるすべての項目にチェックをお願いします。		☐ シンポジウム	☐ 懇話会	☐ 現地見学会
ふりがな		姓	業 界	年 齢
氏 名		☐ 建設業会社員 ☐ その他会社員 ☐ 公務員 ☐ 学生 ☐ その他()	☐ 10代以下 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上	
お住まいの市区町村		電話番号	メールアドレス (任意)	
☐ 後鳥羽内 ☐ 県外 市・区・町・村			☐	

◇ 背景写真候補

1. 吉野川橋と眉山

決定



2. 岩津橋



3. 吉野川にかかる虹



4. 吉野川中流



5. ラフティング（吉野川上流）



運営支援業務委託発注の見積もり結果について

2026/3/10時点

◇ 見積結果

運営支援業務に関わる見積もりを取っていただいたところ、下記の金額が提示されました。現在の予算額に収まる金額となります。

御 見 積 書

伝票番号：17-1030 作成日：令和7年11月10日

徳島県知事 殿

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
下記の通り御見積申し上げます。

御見積金額

¥ 1,812,800 (税込)

【課税10%】

実施予定日：令和8年10月27日

件名：第30回水シンポジウム2026inとくしま 開催運営業務

DEAR
CREATIVE × PR COMMUNICATION

株式会社ディア

代表取締役 高橋 幸司

登録番号：T8480001006338

〒770-0904

徳島県徳島市新町橋1丁目8

TEL 088-678-3040 / FAX 088-678-4248

担当：入山 光志

	項目	個数	単価	金額
1	会場設営・撤去関係	1 式	¥ 396,500	¥ 396,500
2	広報関係	1 式	¥ 500,000	¥ 500,000
3	撮影・編集関係	1 式	¥ 300,000	¥ 300,000
4	会場映像関係	1 式	¥ 161,500	¥ 161,500
5	その他設営経費	1 式	¥ 290,000	¥ 290,000
				¥ -
				¥ -
【備考】			小計	¥ 1,648,000
			消費税 (10%)	¥ 164,800
			合計 (税込)	¥ 1,812,800
【キャンセル規定】				
※機材・車両・人件費：(7日前 40%) / (6日～2日前 70%) / (前日100%) / (設営前100%) / (設営開始100%) + 実働費				
※お取り寄せ商品：(7日前 50%) / (6日～2日前 100%) / (前日100%) / (設営前100%) / (設営開始100%) + 実働費				

見 積 明 細 ①

伝票番号：17-1030 作成日：令和7年11月10日

件名：第30回水シンポジウム2026inとくしま 開催運営業務

実施予定日：令和8年10月27日

会場：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

	項目	個数	単価	金額
◎	会場設営・撤去関係		小計	¥ 396,500
1	玄関立て看板 東側ホール前 (W900×H2400)	1 枚	25000	¥ 25,000
2	会場吊り看板 (W7200×H900)	1 枚	50000	¥ 50,000
3	垂れ幕 (W900×H3500)	6 枚	15000	¥ 90,000
4	登壇者机前垂れ (W300×H600)	6 枚	1500	¥ 9,000
5	受付看板 (区分分け W1800×H250×H2000)	5 枚	7500	¥ 37,500
6	会場誘導看板 (W450×H450・自立スタンド)	10 枚	3000	¥ 30,000
7	壺花	1 式	25000	¥ 25,000
8	胸章 (大・名入れ無し)	20 個	1500	¥ 30,000
9	会場設営・撤去費	1 式	100000	¥ 100,000
◎	広報関係		小計	¥ 500,000
10	ポスター・チラシ・HPデザイン費	1 式	300000	¥ 300,000
11	印刷・郵送費 (郵送先は30箇所程度)	1 式	150000	¥ 150,000
12	諸経費	1 式	50000	¥ 50,000
◎	撮影・編集関係		小計	¥ 300,000
13	撮影機材費 (カメラ2台・その他)	1 式	50000	¥ 50,000
14	カメラマン人件費	2 名	25000	¥ 50,000
15	編集費	1 式	150000	¥ 150,000
16	諸経費	1 式	50000	¥ 50,000
◎	会場映像関係		小計	¥ 161,500
17	ビデオスイッチャー (8ch)	1 台	40000	¥ 40,000
18	プレビューモニター (21.5インチ)	1 台	4000	¥ 4,000
19	ノートパソコン(タイトル用・演台用)	2 台	10000	¥ 20,000
20	録画機器	1 台	3500	¥ 3,500
21	HDMIスプリッター	1 台	4000	¥ 4,000
22	28インチモニター (パネルディスカッション用)	3 台	5000	¥ 15,000
23	結線ケーブル・周辺機器	1 式	20000	¥ 20,000
24	映像オペレーター人件費	1 名	30000	¥ 30,000
25	サブスタッフ人件費	1 名	25000	¥ 25,000
◎	その他設営経費		小計	¥ 290,000
26	司会費	1 日	30000	¥ 30,000
27	進行管理	2 名	30000	¥ 60,000
28	進行台本・図面等作成費	1 式	100000	¥ 100,000
29	その他運営諸経費	1 式	100000	¥ 100,000

2026/5/22時点

[illegible]

御見積書

徳島県知事 殿

担当：入山 光志

件名：第30回水シンポジウム2026inとくしま

31/101

決定

伝票番号：17-1030 作成日：令和8年5月18日

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
下記の通り御見積申し上げます。

¥ 225,500 (税込)

件名：第30回水シンポジウム2026inとくしま

担当：入山 光志

32/101

◇ 候補 3

御見積書

伝票番号：17-1030 作成日：令和8年5月18日

徳島県知事 殿

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

下記の通り御見積申し上げます。

御見積金額

¥ 118,250 (税込)

【課税10%】

実施予定日：令和8年10月27日

件名：第30回水シンポジウム2026inとくしま

DEAR

CREATIVE x PR COMMUNICATION

株式会社ディア

代表取締役 高橋 幸司

登録番号：T8480001006338

〒770-0904

徳島県徳島市新町橋1丁目8

TEL 088-678-3040 / FAX 088-678-4248

担当：入山 光志

項目		個数	単価	金額
●	楕円抜き手提げポリ袋			
1	ビニールポリ袋（厚0.07mm）・グラビア印刷・1色 A4対応サイズ（W240×H400×マチなし）	500 枚	185	¥ 92,500
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
	※イメージ			¥ -
●	データ製作費			
2	トートバッグ印刷用データ製作費	1 式	15000	¥ 15,000
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
				¥ -
【備考】				
		小計		¥ 107,500
		消費税 (10%)		¥ 10,750
		合計 (税込)		¥ 118,250

予算について

2026/5/22時点（会議終了段階で修正）

◆収入の部（見込み）

項 目		予 算	備 考
負担金	土木学会水工学委員会	500,000	
	四国地方整備局	200,000	
	徳島県	200,000	
	徳島県河川協会	200,000	
	負担金 小計	1,100,000	
助成金	（公財）河川財団	1,000,000	R8年5月8日採択
	（一財）防災研究協会	200,000	R8年5月15日採択
	（一社）四国クリエイト協会	300,000	R8年3月25日採択
	助成金 小計	1,500,000	
協賛金	未定		
	協賛金 小計		
雑収入	ブース展示料	30,000	参加者から徴収
	現地見学会 （昼食1,000円+見学科？）×50名程度想定	?	参加者から徴収
	雑収入 小計	?	
	合 計	2,600,000	

◆支出の部（見込み）

項 目		予 算	備 考
運営経費	会場利用料	150,000	未確定
	会場等設営費	755,000	※1
	広報（ポスターデザイン、HP作成）	400,000	※1
	広報（ポスター印刷、郵送料）	150,000	※1
	オンデマンド配信（撮影+編集+配信）	507,000	※1
	トートバック作製費	225,500	不織布案
	事務経費（通信費等）	50,000	
現地見学会	保険（1人500円想定×50名）	25,000	
	昼食・見学科	未定	参加者から徴収
謝金・交通費	講演者謝礼、交通費	250,000	講演謝礼未確定
	シンポジウム司会・進行者		
合 計		2,512,500	

※1：業務委託

今後のスケジュールについて

2026/5/22時点

年 月	実施行事・会議および議題等
令和7年度	
10月24日 10月25日	水シンポジウムinやまなし 1日目シンポジウム, 2日目現地見学会
10月28日	第1回実行委員会 委員会規約・メンバー・開催日程・シンポジウム会場・メインテーマ・役割分担の決定 予算案の提示
11月11日	河川財団 助成金申請
1月22日	四国クリエイト協会 助成金申請
3月9日	第1回事務局会議 シンポジウム企画構成, 講演者, 現地見学会, 懇親会 運営支援業務委託発注の見積もり, 配布用トートバック 予算案
3月10日	第2回実行委員会 シンポジウム企画構成, 講演者, 現地見学会, 懇親会 運営支援業務委託発注の見積もり, 配布用トートバック 予算案
令和8年度	
4月初旬	運営支援業務委託発注
4月中旬	防災研究協会 助成金申請 (開催の6ヶ月前まで)
5月22日	第3回実行委員会 シンポジウム企画構成, ポスターデザイン, 予算案など
9月中旬	事務局会議 シンポジウム当日の人員配置, 役割, ブース配置等
10月中旬	事務局会議 当日運営の最終確認
10月27日AM	会場準備及び各種リハーサル
10月27日PM	水シンポジウムinとくしま (講演)
10月28日	水シンポジウムinとくしま (現地見学会)
1月中旬	事務局会議 予算収支の中間報告, 水シンポジウム報告書 (素案) の確認
2月下旬	河川基金助成事業 (完了) 報告 (報告期限: 4月中)
2月下旬	第4回実行委員会 決算報告, 監査, 水シンポジウム報告書の審議

参考

- ・あわぎんホール利用料：<https://kyoubun.or.jp/pdf/ryokin.pdf>

ホール1日：74,020円

楽屋1日：3,330円

- ・山梨大会ホームページ

<https://amsys.jp/mizusympo2025/>

- ・会場セッティングのイメージ（佐賀）



・会場セッティングのイメージ（山梨）



【第3号議案】

資料3

「第29回 水シンポジウム2025 in やまなし」予算（案）

令和7年3月時点

■収入の部（申請中及び見込額（※）を含む）

（単位：円）

項 目		予 算	備 考
繰越金	長野県より通帳の利息金として	811	
負担金	土木学会水工学委員会	500,000	
	土木学会関東支部山梨会	200,000	
	国土交通省関東地方整備局	200,000	
	山梨県	200,000	
	甲府市	200,000	
	山梨大学地域防災・マネジメント研究センター	100,000	
	山梨大学国際流域科学研究センター	100,000	
	山梨県河川砂防協会	200,000	
負担金 小計		1,700,811	
助成金	(公財)河川財団	1,000,000	
	(公社)建設技術センター	100,000	※
	(一財)防災研究協会	200,000	※
	(一社)関東地域づくり協会	300,000	
	助成金 小計	1,600,000	
協賛金	(一社)山梨県建設業協会	200,000	
	(一社)山梨県建設コンサルタンツ協会	100,000	※
	(一社)山梨県地質調査業協同組合	50,000	※
	協賛金 小計	350,000	
雑収入	現地見学会参加費（昼食、見学料等） （昼食代1,000円＋見学料等1,000円）×40名を想定	80,000	参加者から徴収
	ブース展示料 （30,000円／ブース）×5ブースを想定	150,000	参加者から徴収
			・パネル等の展示料は、今後検討
	雑収入 小計	230,000	
合 計		3,880,811	

■支出の部（精査中）

（単位：円）

項 目		予 算	備 考
運営経費	会場・設備費	200,000	
	企画、運営、広報等	2,300,000	見積より
現地見学会経費	バス	450,000	概算
	保険	20,000	
	昼食、見学料等	80,000	
謝金・交通費	講演者、分科会出演者、学生アルバイト代等	800,000	概算
事務費	振込手数料、郵送・通信費等	30,811	概算
合 計		3,880,811	

「第28回 水シンポジウム2024 in ながの」収支決算書

■収入の部

（単位：円）

項 目		予 算	決 算	増減	備 考
負担金	土木学会水工学委員会	500,000	500,000	0	
	国土交通省北陸地方整備局	200,000	199,100	-900	精算による減 （国別契約）
	長野県	200,000	224,820	24,820	精算による増 （県別契約）
	長野市	200,000	200,000	0	
	長野県河川協会	200,000	200,000	0	
	信州大学地域防災減災センター	200,000	200,200	200	精算による増 （信大別契約）
	負担金 小計	1,500,000	1,524,120	24,120	
助成金	（公財）河川財団	1,000,000	1,000,000	0	
	（一財）防災研究協会	200,000	200,000	0	
	（一社）北陸地域づくり協会	300,000	250,000	-50,000	精算による減
	助成金 小計	1,500,000	1,450,000	-50,000	
協賛金	協賛団体協賛金	0	0	0	
	協賛金 小計	0	0	0	
その他収入	ブース出展料	240,000	240,000	0	30000円×8団体
	懇親会参加費※徴収	315,000	336,000	21,000	7000円/人×48人
	現地見学会参加費（昼食代） ※徴収	82,000	82,000	0	2000円/人×41人
	利息	0	903	903	
	雑収入 小計	637,000	658,903	21,903	
合 計		3,637,000	3,633,023	-3,977	
銀行口座 入金合計金額			3,008,903		

■支出の部

（単位：円）

項 目		予 算	決 算	増減	備 考
運営経費	会場費、設備費	200,000	224,820	24,820	精算による増 （県別契約）
	運営支援業務（企画、運営、広報等）	2,600,000	2,560,566	-39,434	精算による減 （実行委員会契約分）
	運営支援業務（実行委員会契約分）	2,600,000	2,161,266		（国交省契約分）
	運営支援業務（国交省契約分）		199,100		（信大契約分）
	運営支援業務（地域防災減災センター契約分）		200,200		
懇親会	利用料	315,000	315,000	0	7000円/人×45人
	返金分	0	21,000	21,000	7000円/人×3人返金
現地見学会経費	バス	262,000	270,800	8,800	精算による増
	バス代	180,000	160,800		
	昼食代	82,000	102,500	20,500	精算による増 2500円/人×41人
	キャンセル代（昼食）	0	7,500	7,500	3名当日キャンセル 2500円/人×3人 妙笑寺見学会に係る経費
	見学料等	100,000	125,411	25,411	精算による減
	保険	0	0	0	委託業務に含む
謝金・交通費	講演者謝礼、交通費等	150,000	109,225	-40,775	精算による減
事務費	振込手数料、郵送・通信費等	10,000	5,390	-4,610	精算による減
合 計		3,637,000	3,632,212	-4,788	精算による減
銀行口座 出金合計金額			3,008,092		

全体額収入－支出＝ 811 円

銀行口座入金－出金＝ 811 円

811円（解約時の利息分）は次回開催県である山梨県へ引継（山梨県受領済）

河川部会報告

1) 河川部会執行部(継続予定)

2026.6.2 水工学委員会資料

- ✓ 部会長 堀江克也(いであ(株))
- ✓ 副部会長 瀬崎智之(国土政策総合研究所)、原田守啓(岐阜大学)
- ✓ 委員(幹事長) 近者敦彦(三井共同)
- ✓ 部会員:38名 委員(含兼幹事長)30名(民9・学10(内交流3名)・官11)
幹事7名(民5・学1・官1)、事務局1名、アドバイザー6名(民2・学4)

2) 2025年度の主な活動

- 河川技術シンポジウム(6/19-6/20)
- 第1回河川部会(8/22 13:00～ハイブリッド)
- 水工学オンライン連続講演会河川技術論文賞受賞者講演(8/26 17:00～)
- 第2回河川部会(10/30 13:00～ハイブリッド)
- 河川技術シンポオンライン報告会～過去を礎に未来を拓く～(11/21 17:00～)
- 会告(2026年度河川技術シンポジウムおよび「河川技術論文集第32巻」論文募集 11月下旬)
- 第3回河川部会(2/18 13:00～ハイブリッド)
- 第4回河川部会(4/18 13:00～ハイブリッド)



(今後の予定)

- 第5回河川部会(6/8 13:00～オンライン)
- 河川技術シンポジウム(6/18-6/19) 土木学会(対面及びオンライン)

河川部会員名簿(2026.4.1付)

新任

No.	役割	氏名	所属
1	会長	堀江 克也	いであ(株)
2	副会長	瀬崎 智之	国土交通省 国土技術政策総合研究所
3	副会長	原田 守啓	岐阜大学高等研究院環境社会共生体研究センター
4	委員(交流)	赤堀 良介	愛知工業大学 工学部
5	委員	足立 文玄	独立行政法人水資源機構
6	委員	生田 浩一	(一財)国土技術研究センター
7	委員	上野 俊幸	応用地質(株)
8	委員	太田 一行	(一財)電力中央研究所
9	委員	尾花 まき子	名古屋工業大学大学院工学研究科
10	委員(幹事)	柏田 仁	東京理科大学 創域理工学部 社会基盤工学科
11	委員	川池 健司	京都大学 防災研究所 気候変動適応研究センター
12	委員	久保 宜之	国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課
13	委員	小林 賢也	(公財)河川財団
14	委員(幹事長)	近者 敦彦	三井共同建設コンサルタント(株)
15	委員	崎谷 和貴	(公財)リバーフロント研究所
16	委員	新宅 幸夫	一般財団法人 水源地環境センター
17	委員	武内 慶了	国土交通省 国土技術政策総合研究所
18	委員(幹事)	竹村 吉晴	中央大学研究開発機構
19	委員(交流)	谷口 健司	金沢大学

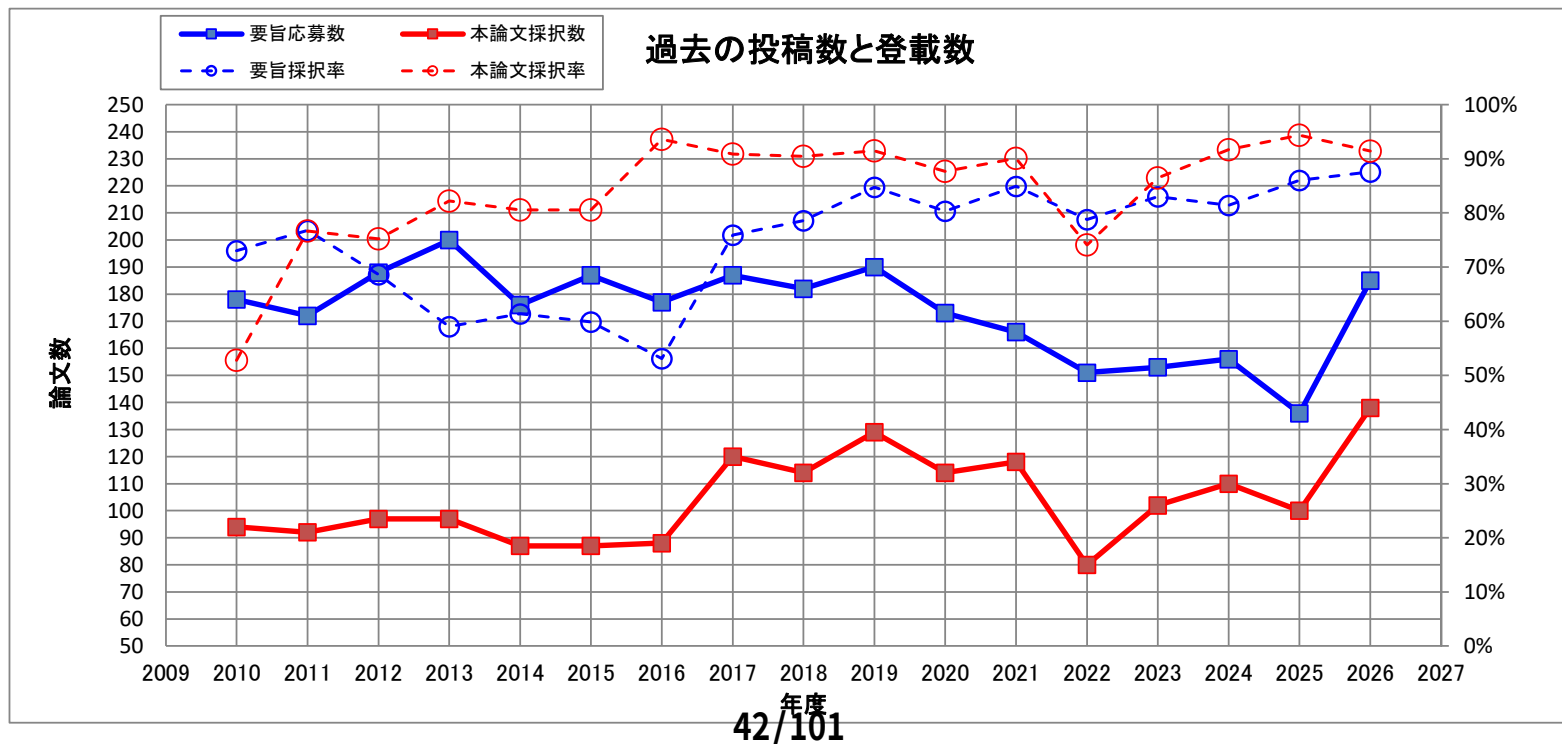
No.	役割	氏名	所属
20	委員	田端 幸輔	国土交通省 国土技術政策総合研究所
21	委員	知花 武佳	政策研究大学院大学
22	委員	名久井 孝史	(一財)河川情報センター
23	委員	西口 亮太	日本工営(株)
24	委員	藤本 雄介	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
25	委員	本田 隆英	大成建設(株)
26	委員	松田 浩一	パシフィックコンサルタンツ(株)
27	委員	三浦 心	(株)建設技術研究所
28	委員	見上 哲章	(株)東京建設コンサルタント
29	委員	溝口 敦子	名城大学 理工学部, 東北大学災害科学国際研究所
30	委員(交流)	萬 和明	京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター
31	幹事	猪股 広典	国立研究開発法人土木研究所
32	幹事	小山 直紀	中央大学研究開発機構
33	幹事	田方 俊輔	日本工営株式会社
34	幹事	高橋 一徳	いであ株式会社
35	幹事	長谷川 健一	三井共同建設コンサルタント株式会社
36	幹事	吉武 央気	パシフィックコンサルタンツ株式会社
37	幹事	米田 駿星	(株)建設技術研究所
38	事務局	杉野 詞音	(社)土木学会 事務局研究事業課

アドバイザー

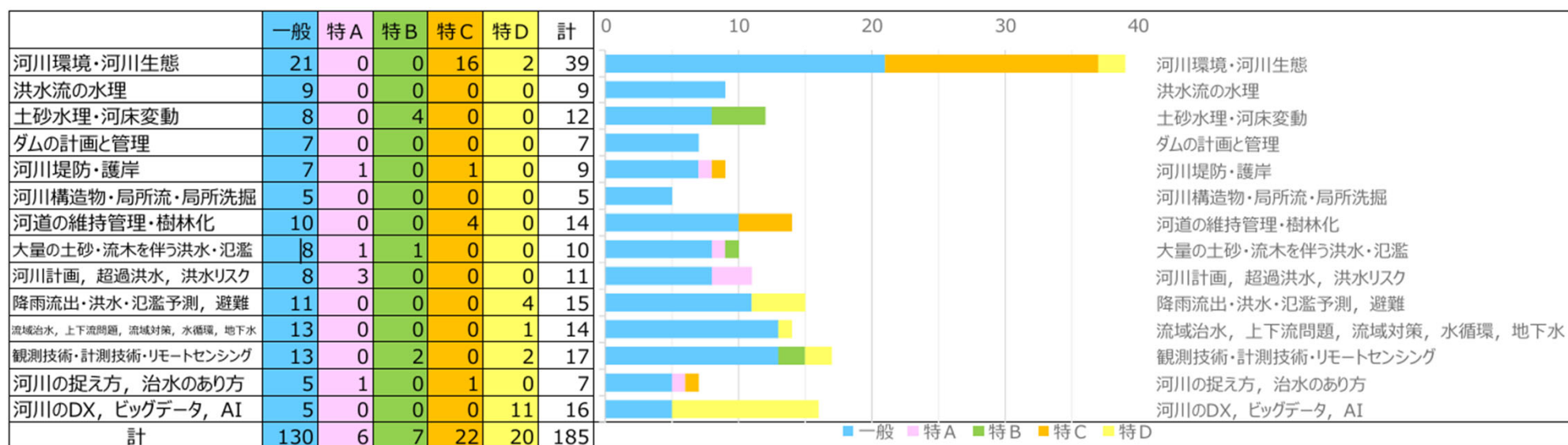
泉 典洋(北海道大学), 田村 浩敏(株式会社 建設技術研究所), 椿 涼太(名古屋大学), 戸田 祐嗣(名古屋大学),
渡邊明英(東京建設コンサルタント), 内田龍彦(広島大学)

河川技術論文集第32巻投稿状況

	Vol.16	Vol.17	Vol.18	Vol.19	Vol.20	Vol.21	Vol.22	Vol.23	Vol.24	Vol.25	Vol.26	Vol.27	Vol.28	Vol.29	Vol.30	Vol.31	Vol.32
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
要旨応募数	178	172	188	200	176	187	177	187	182	190	173	166	151	153	156	136	185
要旨採択数	130	132	129	118	108	112	94	142	143	161	139	141	119	127	127	117	162
要旨採択率	73%	77%	69%	59%	61%	60%	53%	76%	79%	85%	80%	85%	79%	83%	81%	86%	88%
本論文投稿数		120	129	118	108	108	94	132	126	141	130	131	108	118	120	106	151
本論文採択数	94	92	97	97	87	87	88	120	114	129	114	118	80	102	110	100	138
本論文採択率	53%	77%	75%	82%	81%	81%	94%	91%	90%	91%	88%	90%	74%	86%	92%	94%	91%
全体採択率	53%	53%	52%	49%	49%	47%	50%	64%	63%	68%	66%	71%	53%	67%	71%	74%	75%
総説	0	0	0	4	2	3	2			1	0	1	2	3	3	2	3
招待論文	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	1	0
論文+報告	94	92	97	93	85	84	86			128	114	117	78	99	107	97	135
開催場所	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	—	オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン



投稿分野(要旨投稿段階)



- ・「河川環境・河川生態」が圧倒的に多い
- ・次に、「観測技術・計測技術・リモートセンシング」「河川のDX,ビッグデータ,AI」

2026年度河川シンポジウム・ 河川技術論文集第32巻投稿等について

●シンポジウム概要

- ・シンポジウム開催日：2026年6月18日（木）・19日（金） 土木学会
- ・OSは2つ。両日とも午前を予定。ハイブリッド形式
- ・ポスター発表：6/18（木）午後
- ・懇親会：6/18（木）18:00～ パティア四ツ谷店：四ツ谷駅から徒歩3分程度
- ・口頭発表：6/19（金） ハイブリッド形式
- ・特設サイトでのディスカッション（特設HP） 6/15（月）～7/3（金）

●論文集等スケジュール

- ・要旨応募（1/8締切）→本論文投稿（4/2締切）→ 最終原稿up（5/28）
- ・発表資料up（～6/15）・オンラインディスカッション（6/15～7/3）

●謝辞

- ・貴重な研究成果を多数ご投稿いただきありがとうございました。
- ・部会外査読を継続⇒タイトなスケジュール（かつ水工学論文集の投稿と最終論文が重なる）の中、ご協力ありがとうございました。

表彰

1. 河川技術論文賞
2. 優秀発表者賞（ポスターセッション・口頭発表）
3. アウトスタンディングディスカッション賞

評価方法を見直します。

ポスター発表，口頭発表，OSにおいて活発なディスカッションを実施し，議論を活性化させ，河川技術シンポジウムの価値向上に貢献した方々を顕彰するものとします。

評価方法の見直しに伴い，論文発表者（ポスター発表又は口頭発表）の皆さまには，投票へのご協力をお願いいたします。

投票方法の詳細は，後日あらためてご案内いたします。（Formsによる投票形式で，ご自身以外の該当者1名の名前と投票理由をご入力いただく予定です）

詳細なプログラムは後日HPで公表

環境水理部会活動報告・活動予定

2026年度環境水理部会研究集会

日時: 2026年6月11日から6月12日

場所: 兵庫県(淡路島)

現地幹事: 中山恵介先生(神戸大学)

部会長 新谷哲也(東京都立大学)

副部会長 中山恵介(神戸大学)

幹事 巖島 怜(九州大学)

幹事 田井 明(福岡工業大学)

WG活動

沿岸海洋環境WG(主査: 齋田倫範(鹿児島大学))

- ・ WGメンバーを中心に意見交換を実施予定, 沿岸海洋環境に関する課題の共有・議論のためのワークショップや見学会等の開催を検討

火山麓河川水系WG(主査: 田代喬(名古屋大学))

- ・ WGメンバーからの話題提供による公開型の談話会を開催予定. メンバーを中心に, 火山麓河川水系特有の問題を共有, 議論するための巡検, ワークショップを検討.

閉鎖性水域WG(主査: 井上徹教(港湾空港研究所))

- ・ 現地見学会を予定 (8月後半から9月@新潟) 閉鎖性水域における諸問題について事例等の調査研究を行い, 今後の研究の発展に資する見識を広める.

WG活動(続き)

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG(主査:梅田信(日本大学))

- ・ 夏季～秋季にWGの開催予定.

水温WG(主査:赤松良久(山口大学))

- ・ 今年2月6日に勉強会を実施した. 今後は, WGメンバーを中心とした意見交換会&現地見学会を実施予定

プラスチック環境研究WG(主査:石塚 正秀(香川大学))

- ・ 環境水理部会研究集会においてWG会合を予定. メンバーがJpGU-AGU 2026, AOGS2026(HS-17)に参加予定

環境水理部会研究集会2026 in 淡路島 開催のご案内

投稿者：巖島 怜 投稿日時：火, 2026-05-12 20:14

1. 開催日時

- 研究発表会：2025年6月11日（木）10:00～18:30（予定）
- 現地見学会：2025年6月12日（金）11:00～14:30（予定）

2. 開催場所

- 研究発表会：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

3. 内容・スケジュール

6月11日（木）研究集会

- 10:00 地球温暖化に関するセッション
- 13:40 開会式
- 13:45 一般セッション I
- 15:25 特別講演
- 16:20 一般セッション II
- 18:30 立食パーティー&ポスターセッション
- 20:30 ナイトセッション

参加者 53名
口頭発表 33名
ポスター発表 9名

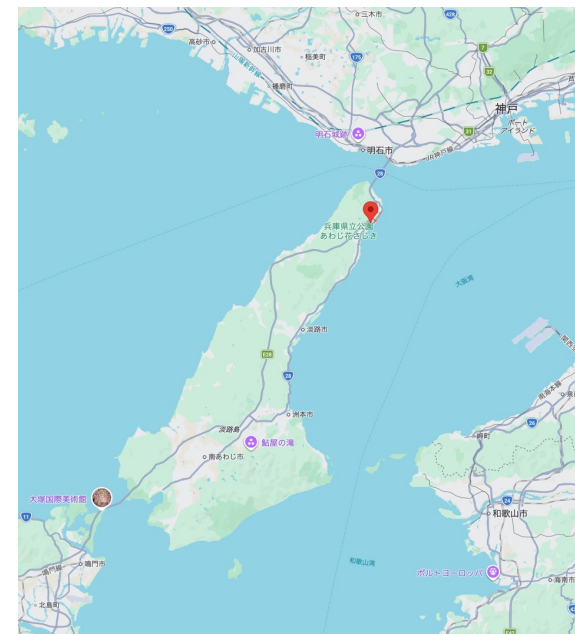
6月12日（金）現地見学会

- 11:00頃 淡路夢舞台国際会議場 出発
- 北淡震災記念公園 野島断層保存館 等
- 14:00頃 新神戸駅 着
- 14:30頃 三ノ宮駅 着

【6月11日（木）研究集会 プログラム（仮）5/14時点版】

※発表順や要旨等の変更・差替えの可能性あり

発表時間：14分（発表9分＋質疑5分）、12分（発表7分＋質疑5分）、11分（発表6分＋質疑5分）



Google map

次回、閉鎖性水域WG@新潟

期間:8月後半から9月、2泊3日を想定

場所:大河津分水路, 関屋分水路, 新潟東港, 加茂湖など

日程やカウンターパートなどについて調整中(現地説明してくれるお知り合いがいましたら、ご紹介お願いします)



大河津分水路



加茂湖・カキ養殖いかだ



関屋分水路



新潟東港

2026 年 6 月 2 日

レーダ雨量計 60 周年記念シンポジウム 開催報告

水文部会 市川温

1. 概要

日本におけるレーダ雨量計の運用開始から 60 周年を記念し、現在の河川管理、砂防、インフラ運営における活用状況や最新技術を共有するとともに、将来の展望について議論した。

- 名称：レーダ雨量計 60 周年記念シンポジウム
「社会インフラとしてのレーダ雨量計ネットワーク」
- 主催：土木学会水工学委員会
- 後援：国土交通省
- 日時：2026 年 5 月 13 日（水） 13:30 ～ 17:30（13:00 開場）
- 会場：東京大学本郷キャンパス 伊藤謝恩ホール
- 参加者数：185 名（参加登録者数：249 名）

2. プログラム

総合司会：大石 哲 神戸大学教授

13:30～13:35	開会挨拶（水工学委員長 田中 規夫 埼玉大学教授）
13:35～13:40	来賓挨拶（土木学会会長 池内 幸司 氏）
13:40～13:45	来賓挨拶（国土交通省技監 廣瀬 昌由 氏）
13:45～14:15	はじめに（中北 英一 京都大学名誉教授）
14:15～14:30	水管理・国土保全分野への利用（国土交通省河川情報企画室長 久保 宜之 氏）
14:30～14:45	砂防関連への利用（国土交通省地震・火山砂防室長 伊藤 誠記 氏）
14:45～15:00	質疑
15:00～15:20	休憩
15:20～15:35	鉄道の運行規制への利用（JR 東日本 内藤 孝和 氏）
15:35～15:50	道路の通行規制への利用（日本気象協会 増田 有俊 氏）
15:50～16:05	フェーズドアレイレーダの技術紹介（東芝電波テクノロジー 水谷 文彦 氏）
16:05～16:20	質疑
16:20～16:30	休憩

- 16:30～17:20 全体討議（ファシリテータ 中北 英一 京都大学名誉教授）
 17:20～17:30 閉会挨拶（水工学委員会水文部会長 市川 温 京都大学教授）

3. 懇親会

- ・ 時間： 18:00 ～ 20:00
- ・ 会場： 伊藤謝恩ホール隣 多目的スペース
- ・ 参加者： 73 名

4. 参加申込等

- ・ 参加登録： Google フォームより申し込んで頂いた。
- ・ 配布資料： PDF 形式のみ。直前にウェブ掲載し参加者に連絡した。
- ・ 受講証明： 希望者には土木学会 CPD 受講証明書を発行した。

5. 収支報告

収入の部

項目	予算額（円）	備考
外部助成金	0	京大防災研「自然災害研究集会」不採択
委員会予算	298,825	土木学会 水工学委員会より支出
研究費等	492,932	京都大学 科学研究費助成事業等（不足分を充当）
合計	791,757	

支出の部

項目	予算額（円）	備考
会場使用料	610,522	伊藤謝恩ホール利用料（懇親会会場分も含む※）
映像・配信関連費	60,000	会場システムを利用した録画・アーカイブ作成費
広報・看板製作費	103,400	シンポジウム会場、門の近辺、懇親会会場の計 3 点
運営人件費	17,835	当日運営スタッフ（受付・誘導等）の謝金
合計	791,757	

※懇親会の飲食費については、参加者からの会費で賄った。

基礎水理部会活動報告

2026年度第1回土木学会水工学委員会 2026年6月2日 WEB会議

土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 名簿(2026.04.01現在)							
	氏名	所属					
1 部会長	溝口 敦子	名城大学	理工学部 社会基盤デザイン工学科	31 アドバイザー	朝位 孝二	山口大学	大学院創成科学研究科
2 副部会長	音田 慎一郎	京都大学	工学研究科 社会基盤工学専攻	32 アドバイザー	泉 典洋	北海道大学	工学研究科 環境フィールド工学専攻
3 幹事	山野井 一輝	京都大学	防災研究所	33 アドバイザー	神田 佳一	明石工業高専	
[委員]				34 アドバイザー	木村 一郎	富山大学	都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科
4	赤穂 良輔	岡山大学	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻	35 アドバイザー	里深 好文	立命館大学	理工学部 環境都市工学科
5	旭 一岳	RiverLink		36 アドバイザー	杉原 裕司	九州大学	大学院総合理工学研究院 環境理工学部門
6	五十嵐 善哉	埼玉大学	大学院理工学研究科	37 アドバイザー	高濱 淳一郎	京都府立大学	生命環境学部 森林科学科
7	井上 卓也	広島大学	大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム	38 アドバイザー	高橋 正行	日本大学	理工学部 土木工学科
8	岩崎 理樹	北海道大学	工学研究院 土木工学部門	39 アドバイザー	田中 規夫	埼玉大学	理工学研究科 環境システム工学専攻
9	鵜崎 賢一	群馬大学	理工学府 環境創生部門	40 アドバイザー	内藤健介	WMO	
10	内田 龍彦	広島大学	大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム	41 アドバイザー	藤田 一郎	一般財団法人 建設工学研	
11	太田 一行	電力中央研究所					
12	岡本 隆明	名城大学	理工学部				
13	鬼束 幸樹	九州工業大学	工学部 建設社会工学科				
14	柏田 仁	東京理科大学	理工学部土木工学科				
15	小柴孝太	京都大学	防災研究所				
16	佐藤柳言	日本大学	理工学部土木工学科				
17	山上 路生	京都大学	工学研究科 社会基盤工学専攻				
18	高岡 広樹	ararato株式会社	解析部門				
19	竹村 吉晴	中央大学	研究開発機構				
20	張 浩	熊本大学	大学院先端科学研究部				
21	椿 涼太	神戸大学	大学院市民工学専攻				
22	永野 博之	群馬高専	環境都市工学科				
23	原田 守啓	岐阜大学	流域圏科学研究センター				
24	久末 信幸	関西電力	技術研究所				
25	平松 裕基	土木研究所	寒地土木研究所				
26	福田 朝生	琉球大学	工学部				
27	松本知将	京都大学	防災研究所				
28	横嶋 哲	静岡大学	学術院工学領域 数理システム工学系列				
29	吉田 圭介	岡山大学	環境生命科学研究科				
30	吉村 英一	岐阜大学	工学部社会基盤工学科				

基礎水理シンポジウム

場所： 土木学会講堂

主催： 水工学委員会 基礎水理部会

日時： 2026 年 3 月 10 日（火曜日） 10:10-18:00

参加者数: 61名

10:10-10:15（開会挨拶） 溝口敦子（名城大学，部会長）

10:15-11:00 講演1 内田龍彦（広島大学）

題目： IMPROVING POROUS SHALLOW FLOW SIMULATION
THROUGH EMERGENT VEGETATION VIA FLUX RECONSTRUCTION
（仮）

11:00-11:45 講演2 山上路生（京都大学）

題目：粗度形状が棧粗度間の土砂堆積特性およびセルフライニング
過程へ及ぼす影響（仮）

11:45-13:00（休憩）

13:00-14:30 特別講演 堀和明（東北大学）

題目： *****

14:30-15:15 講演3 原田大輔（法政大学）

題目：砂州・河床波上の流れにおける流木の挙動（仮）

15:15-15:30（休憩）

15:30-16:15 講演4 中谷加奈（京都大学）

題目：河床条件が土石流挙動に及ぼす影響に関する実験的研究
（仮）

16:15-17:30 講演5 関根正人（早稲田大学）

題目：Bed material loadの運動の特性と水流の乱流構造に及ぼす
影響（仮）

17:30-17:55 全体討論

司会： 溝口敦子（日本大学，部会長）

17:55-18:00（閉会挨拶） 音田慎一郎（京都大学，副部会長）



活動報告

- 1. 河川見学会
- 時期 : 2025年3月18日~19日
- 対象河川 : 那賀川（長安口ダム置土外）、吉野川（徳島県）
- 実施方針 : 流砂・河床変動に関する若手WG（冬）と合同実施



参加者数: 24名

吉野川第十堰



吉野川第十樋門

第15回流砂・河床変動に関する勉強会

- 第15回流砂・河床変動に関する勉強会
 - 実施日：3月19日（木）、3月20日（金）
 - 場所：吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

参加者数: 25名



水工オンライン連続講演会（基礎水理部会担当）

- ・ 講演者：東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授 渡邊 健治 先生
- ・ 実施日：4月16日
- ・ タイトル「近年の豪雨・出水による河川橋りょうの被災とその分析 ～地盤工学・河川工学の融合への試み～」

参加者数: 459名

- ・ 近年、豪雨・出水により河川橋りょう橋脚の基礎周辺で洗掘・侵食現象が生じ、それにより橋脚の傾斜・沈下・倒壊等の被害が多く発生している。洗掘に伴う橋脚基礎の不安定化現象は「地盤の支持力問題」であり、従来は地盤工学分野で取り扱われることが多かった。しかしながら、最近は従来とは異なる被災パターンとして、①出水数日後に突然橋梁が倒壊する「遅れ洗掘」、②水位がさほど上昇せずに被災する「低水位洗掘」、③河川の減水期に被災する「減水期洗掘」が多く見られるようになり、実務的な洗掘リスク評価が難しくなっている。
- ・ これらの現象には、河道特性や出水の継続時間（洗掘の時間進行性）等の要因が複雑に関連しあっていると考えられ、地盤工学分野だけではなく河川工学の視点も重要である。本発表では、過去の被災事例や河川橋りょうの維持管理法を総括しつつ、地盤工学・河川工学両方の視点から上記①～③の被災事例を分析する。

第16回流砂・河床変動に関する勉強会 ほか

日時：8月31日（月）、9月1日（火）

場所：釧路市観光国際交流センター（勉強会）

※昨年3月、第13回の勉強会を台湾で実施したことから

今回は台湾の方々と一緒に勉強会.

スケジュール：

8月31日（月）勉強会（9:30から17:15）、懇親会

勉強会の講演者：調整中

9月1日（火）現地視察（釧路湿原）

参加費：1.5万円から2万円を予定

※詳細は京都大学音田先生まで

その他：水理学・移動床水理学基礎講義勉強会を8月学向けイベントとして試行開催予定

水理・水文統計解析研究小委員会 活動記録

全体委員会

2026年1月19日 16:00～18:00

オンライン20名

Taskの報告と審議

Task1: 北野利一、水理・水文量の極値確率評価法の再構築部会

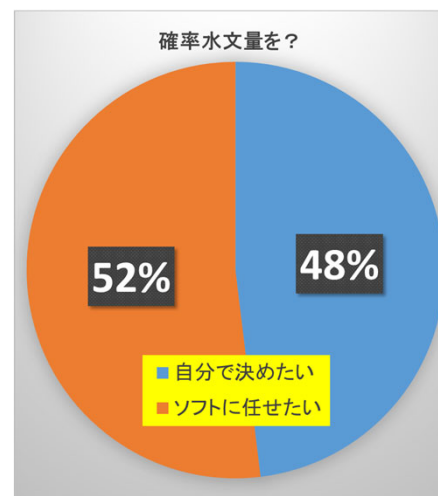
Task2: 田中智大、気候変動の検討に必要な新しい手法レビュー部会

Task3: 小林健一郎、実務としても学としても裾野を広げる仕組みづくり部会

水文統計ユーティリティ(JICE)の改良・更新に関するアンケートを実施

Task3のアンケート結果 1～2月

最終的な確率水文量を自分で
検討して決めたい／決めて欲しい
統計プログラムの形式嗜好
欲しい機能
などを質問。



60/101

コメント：

マイナーな分布関数、新たな手法があると良い。研究に使える。CRANやgit hubなどでルーチンを公開して、世界標準とは言わないまでも、世界でユーザーを獲得し、GUIなどは考えのある企業・研究者が作り込む。答えを出す過程や注意する点を学べるようになっていくプログラムがあることが、より重要ではないかと考えます。考える機会が必要。他のソフト、シミュレーションソフトとシームレスに連携できる仕組み。ソースコードの公開。英語版。途上国の職員やエンジニアに対して統計学に理解が難しい。

水理・水文統計解析研究小委員会 活動記録

Task1 北野利一（名古屋工大）

治水計画に用いられる分布の裾特性の考察
プロットイングポジションのまとめ（カナン公式など）

Task2 田中智大（京大防災研）

目標達成☑

極端洪水推定に関するレビュー論文が掲載

Tanaka, T., Hiraga, Y., Watanabe, S., Fukutani, Y., & Kuroyanagi, Y. (2026). Extreme Precipitation and Flood Estimation Using Large Ensemble Climate Model Outputs: A Review. Journal of Hydrologic Engineering, 31(3), 03126002. <https://doi.org/10.1061/JHYEFF.HEENG-6665>

Task3 小林健一郎（神戸大学）

国内実務の統計解析のレビュー論文の執筆
第一草稿。アンケート結果の反映。

グローバル気候変動適応研究推進小委員会 2025年度 活動報告

委員長	小林 健一郎	埼玉大学
副委員長	入江 政安	大阪大学
幹事長	丸谷靖幸	九州大学
顧問	中北 英一	京都大学
顧問	矢野 真一郎	九州大学
顧問	中山恵介	神戸大学
幹事	赤松 良久	山口大学
幹事	音田 慎一郎	京都大学
幹事	佐山 敬洋	京都大学
幹事	戸田 祐嗣	名古屋大学
幹事	中津川 誠	室蘭工業大学
幹事	二瓶 泰雄	東京理科大学
幹事（前幹事長）	渡部哲史	九州大学
委員	井上 卓也	広島大学
委員	猪股 広典	土木研究所
委員	田中 智大	京都大学
委員	花崎 直太	国立環境研究所
委員	東 博紀	国立環境研究所
委員	溝口 敦子	名城大学
委員	山田 朋人	北海道大学
委員	仲吉信人	東京理科大
委員	平賀優介	東北大学
委員	豊田将也	豊橋技術科学大学
委員	中谷祐介	大阪大学

オブザーバー	石蔵 良平	九州大学
	内田 龍彦	広島大学
	笠間 清伸	九州大学
	神谷 大介	琉球大学
	多田 毅	防衛大学校
	藤見 俊夫	京都大学
	森 啓年	山口大学
	山城 賢	九州大学
	里深 好文	立命館大学
	椿 涼太	神戸大学
	宮本 仁志	芝浦工業大学
	矢島 啓	島根大学
	重枝未玲	九州工業大学
	竹村吉晴	中央大学
	野原大督	鹿島建設
	溝口裕太	名古屋大学

小委員長：小林健一郎（埼玉大学）
幹事長：丸谷靖幸（九州大学）

今年度より副委員長制を導入。
次年度の委員長は
副委員長の入江先生（大阪大）。

グローバル気候変動適応研究推進小委員会 2025年度 活動報告

土木学会全国大会@北海道（北海学園大学）（令和8（2026）年8月31日（月）－9月4日（金））

研究討論会：気候変動時代における都市の地下空間の「避難・浸水対策」

- 水工学委員会として申請し、8月31日（月）に実施する。
- 主題：近年、気候変動によって更なる豪雨の頻発化・激甚化により、ますます水災害リスクの増加が懸念されている。特に、大都市では浸水に対して非常にリスクが高い地下空間が発達しており、地下街・地下鉄の浸水の危険性が指摘されている。2024年8月21日には東京都心の1時間100mm超の豪雨により、市ヶ谷駅6番出口から雨水が流入し構内が冠水した。地下空間における被害を少なくするためには、河川整備や下水道整備等のハード整備に加えて、リスク情報の発信強化等による「避難・浸水対策」を強化する必要がある。本討論会では「避難・浸水対策」に関する法律・制度、最新技術、現場の観点から現状を概観し、今後の対策を議論する。
- 座長：小林健一郎（埼玉大学教授，グローバル気候変動適応研究推進小委員会 委員長）
- 話題提供者（敬称略）：
（開会挨拶・話題提供）中北英一（京大名誉教授），（講演）池内幸司（第113代土木学会会長，河川情報センター理事長），麓博史（国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 水防企画室長），小嶋芳弘（東京都 都市整備局 都市基盤部 調整課 施設計画担当課長）

共通セッション：気候変動・地球環境問題－水工学委員会・地球環境委員会共催セッション

- グローバル小委員会が代表で申請し、地球環境委員会が共催という形で9月4日（金）に実施する。
- 口頭発表14件の講演が集まり、3セッション実施する。

グローバル気候変動適応研究推進小委員会 2025年度 活動報告

- 渇水WG（主査：丸谷@九州大学）
 - 土木学会の予算に渇水をテーマに申請したが，残念ながら不採択となった
 - 予算申請の際に小委員会外の方にもメンバーになっていただいたので，オンラインでのWSの開催を検討中
 - 水文・水資源学会の企画事業委員会での講演会と共催とする予定
- 水理実験WG（主査：猪股さん@土木研究所）
 - 活動検討中
- 基礎水理部会流砂研究会との連携（音田先生@京都大学，井上先生@広島大学）
 - 基礎水理部会のWG研究会（流砂研究会：流砂・河床変動に関する若手勉強会）に小林 小委員長が参加
- 河道関連WG（主査：溝口先生）
 - 1月13日に溝口先生，入江先生，丸谷で打ち合わせを実施
- 災害WG（主査：平賀先生）
 - 2025年末に起きた東南アジアサイクロンなどを対象とした検討をWGで実施

- メンバー ※2026年06月02日現在
山口(京大)※委員長, 渋尾(高知大)※副委員長, 吉武(パシコン)※幹事, 永野(群馬工業高専), 仲吉(東京理科大), 丸谷(九大), 塚本(建技), 小山(中央大), 田中(京大), 柏田(東京理科大), 河野(鳥取大), 豊田(豊橋技科大), 小柴(京大) +現在推薦依頼中
- オブザーバー
田中規夫 水工学委員会委員長, 戸田祐嗣 同幹事長, 山上路生 前委員長
- 担当
水工学オンライン連続講演会, 他

水工学オンライン連続講演会

回	開催日時	講演者	題目	
31	2025年07月24日(木)17時～	中島正人(電力中央研究所)	原子力発電所の地震に対する確率論的リスク評価手法	水理・水文統計解析
32	2025年08月27日(木)17時～	前田健一 (名古屋工業大学) 竹村吉晴(中央大学)	堤内地の漏水・噴砂動態と損傷に及ぼす透水性基礎地盤の層構造の影響 大河津分水路新第二床固の段階階段施工計画の数値解析技術(Q3D-FEBS)による改善	河川
33	2025年10月27日(木)17時～	鈴木敬一(深田地質研究所)	河川堤防における物理探査	河川観測高度化
34	2026年02月09(月)17時～	斎藤秀樹(南アルプス市教育委員会 文化財課)	御勅使みだい川がわ流域における治水・利水の歴史的・考古学的研究の現在地～武田信玄 治水伝承を超えて	河道管理
35	2026年04月16(木)17時～	渡邊健治(東京大学)	近年の豪雨・出水による河川橋りょうの被災とその分析 ～地盤工学・河川工 学の融合への試み～	基礎水理
36	調整中	Tristan Hascoet(理化学研究所)	differentiable modelling および parameter learningに 関する内容	水文

水害対策小委員会

2025年12月以降の活動

- 2025年12月： シンポジウム「2024年能登半島地震・豪雨による複合災害と対策への教訓」
- 2025年12月： 2025年度 第五回耐複合災害小委員会・マニュアルWG
- 2026年 1月： 2025年度 第二回水害対策小委員会
- 2026年 1月： 2025年度 第六回耐複合災害小委員会・マニュアルWG
- 2026年 2月： 第一回「水害の事典」編集委員会
- 2026年 4月： 河川災害に関するシンポジウム（対面・オンライン）
参加人数777人、（2025年度は682人）



河川災害に関するシンポジウム

日 時 2026（令和8）年4月23日（木） 13:00-15:30

開催場所 土木学会講堂（〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目 外濠公園内），
および，Zoomによるオンラインウェビナー

- 13:00-13:05 開会：竹林洋史（水工学委員会水害対策小委員会委員長，京都大学）
- 13:05-13:40 講演1：2025年11月タイ南部洪水（ハジャイ市）の発生メカニズムと洪水警報の実態／藤堂正樹（JICA地球環境部防災グループ 国際協力専門員）・土屋 匠（JICA地球環境部防災グループ 主任調査役）
- 13:40-14:00 講演2：2025年12月スリランカのサイクロン・ディトワによる降雨と気候変動の影響／平賀優介（東北大学 大学院工学研究科土木工学専攻 助教）
- 14:00-14:15 講演3：2025年12月スリランカにおけるサイクロン被害／風間 聡（東北大学 大学院工学研究科土木工学専攻 教授）
- 14:15-14:50 講演4：耐水害住宅の開発と現状／高橋武宏（株式会社一条住宅研究所 免震住宅推進部）
- 14:50-15:25 総合討議

「水害の事典」

編集委員会（敬称略）

編集代表 竹林洋史

編集幹事 田代喬

編集委員 重枝未玲，岡田将治，内田龍彦，山野井一輝，川村里実，大槻順朗，櫻井寿之，
川越清樹，宮本守，久田嘉章（建築），高瀬 邦夫（気象・避難），飛岡啓之（砂防），
新井場公德（消防・避難），津波の事典

- 第1章 水害の実態と被害の全体像 — 現場で何が起きているのか — （52p）
- 第2章 水害現象の特徴と発生メカニズム — なぜ水害は起きるのか — （50p）
- 第3章 水害の予測・解析技術 — 人類はどこまでハザードを理解したか — （66p）
- 第4章 水害のハード対策 — 社会を守るインフラの仕組み — （84p）
- 第5章 水害時の避難・救助と情報活用 — 命を守る行動としくみ — （66p）
- 第6章 水害後の復旧・復興 — より安全な未来へ — （60p）
- 第7章 水害に関連する法律と制度 — 法制度で社会を守る — （34p）
- 第8章 気候変動と新時代の水害リスク — 地球規模の変化と向き合う — （32p）

水害年表

1章～8章のページ数 444

6月から執筆依頼開始.

水害対策小委員会

2026年4月以降の活動

- 2026年4月： 第二回「水害の事典」編集委員会
- 2026年4月： 2026年度 第一回耐複合災害小委員会・マニュアルWG
- 2026年5月： 第三回「水害の事典」編集委員会

今後の活動

- 2026年6月： 2026年度 第一回水害対策小委員会
- 2026年6月： 2026年度 第二回耐複合災害小委員会・マニュアルWG
- 2027年1月： 2026年度 第二回水害対策小委員会
- 2027年4月： 河川災害に関するシンポジウム（対面・オンライン）

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 水害事典（朝倉書店）執筆・編集
- ・ 建築学会とのコラボレーション
- ・ 水害対策小委員会HPの充実
- ・ 消防連携WG
- ・ 水害対策小委員会Facebookでの情報発信
- ・ 水害対策小委員会災害調査データベースWG

第6回（再開第1回）減災・防災委員会 議事録案

1. 日時：令和8年5月11日(月) 09:00-10:00

2. 場所：オンライン開催（ZOOM）

3. 出席者（敬称略、順不同）：

岡安委員長、佐藤副委員長、塚原幹事長、中村副幹事長

萩原、奥村、沢田、森脇の支部委員。竹林、松田、目黒の各委員

（事務局）柳川、飯野（議事録）

4. 議事

（1）委員長挨拶

はじめに岡安委員長から挨拶があった（概要は以下のとおり）。

- ・前回（第5回）減災・防災委員会は2018年。土木学会としても減災・防災の委員会活動は重要であり、活動再開したい。
- ・資料6-2-1は土木学会110周年略史のため減災・防災委員会の以前の活動をまとめたもの。これまでは、緊急対応マネジメント小委員会（小委員長は松田先生）と減災システム構築小委員会（小委員長は奥村先生）の2つの小委員会構成となっていた。
- ・前回委員会から時間が開いたので、今後の委員会・小委員会への参加・委員交代等については、今後議論していきたい。

（2）減災・防災委員会の活動再開について（緊急対応マネジメント小委員会と減災社会システム委員会）

資料に基づき岡安委員長より説明があり、2つの小委員会の活動再開を承認した。

以下の意見交換等を行った。

- ・緊急対応マネジメント小委員会については、内容的には緊急対応、土木学会の中で災害等発生したときの横連絡等の話であり、前回までに実質ほぼおまとめいただいたと理解しているが、この数年新たにいくつかの大きな災害があり、再整理をしていただきたいということを次期会長からも話をいただいているような状況にある。今後小委員会をどのように検討していくかについては、小委員会にてご議論をいただきたい。
- ・減災社会システム小委員会は、土木学会として減災・防災にどう向き合っていくのかという内容を議論していた。内容が広範に渡るため簡単にまとまる話ではないが、こちらもちょうどどのようにしていくのか小委員会で議論いただきたい。
- ・実際問題としては、（前回から間が開き）委員が決まっていない状態で中断しているので、全体に関わって委員会として議論したほうが良いのではないかと。まず幹事団に小委員長交えて議論していくこととしたい。

(3)「減災まちづくり小委員会（仮称）」の設置について

資料に基づき岡安委員長より「減災まちづくり小委員会（仮称）」の設置提案があり、新規小委員会設置の承認をした。

以下の説明・意見等があった。

- ・母体は、調査研究部門の土木計画学研究委員会と海岸工学委員会で共同運営していた小委員会であり、減災・防災という形で少し広く議論をしたいということで減災・防災委員会の中の小委員会として新たに位置づけ直すということでの提案である。
- ・2014年に、(2011年東日本大震災を受けての)津波防護とまちづくりという形で議論をスタートした。当時の会長の意向も受け、調査研究部門の委員会の横つながりという形で、土木学会としても新しい試みということだったと思う。令和3年に土木学会減災アセスメント小委員会の名前で「津波に対する海岸保全施設整備計画のための技術ガイドライン」を作成した。2021年に「沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会」に引き継がれた。今後、減災・防災委員会の中でもう少し広い分野も含めて議論した方がよいと考え、減災・防災委員会で活動したいという申し出があった。
- ・受け入れてよいと思うが、調査研究部門のままのほうがモチベーションは上がるのではないか。
- ・調査研究部門で12年間やってきたが、社会実装をすることが重要であり土木学会としての委員会としてあったほうがよいという思いもある。調査研究だから活発に活動している側面はあると思うが、次期会長も調査研究部門と社会支援部門の垣根を少し取り払いたいという考えもあるように聞いている。
- ・社会支援部門は土木学会としてのエッセンシャルワークで、社会支援のためという方針を示してくれるのなら問題はないと思う。
- ・若い研究者は災害、防災に関わることは雑用の認識が強いように思う。研究をするということが見えないと活動が盛り上がらないのではないかと危惧する。
- ・研究志向を現実的に社会に受け入れてもらえるよう落とし込まないと成立しなくなる。社会支援としてまとめていくことも必要と思う。
- ・現状では津波から高潮災害に論点が移ってきているが、これを機会により広範な災害を対象にすることが良いと思う。他の委員会からも委員を派遣して意見交換をするのが良いのではないか。
- ・津波災害についても、高台に移転により土砂災害のリスクが増えるなど問題がある。土木学会として、まちの在り方まで含めて議論をするのか覚悟を示す必要があると思う。土木学会の専門性が社会に生きることを確認する必要がある。
- ・減災社会システムと新しいところの仕分けをどうするのか考える必要がある。また、小委員会の活動がうまくいかなり理由は出口が明確でないからとも思う。出口として、行政へ、市民へ等の整理が足りないのではないか。
- ・土木学会としてどう考えるのか、技術的なところを社会にどう活かすのかは、委員会全

体として考えていく必要がある。一方、減災まちづくり小委員会は災害とまちの発展をどうバランスするかを、方法論として議論することになると思う。

- ・緊急対応マネジメント小委員会について、すでに8年も経過し学会内での協力体制も変わっているので再整理をする必要があるし、まずは過去の委員の方が参加するのがよいと思う。世代交代も含めて今後の小委員会活動を考える必要がある。当面は松田先生に小委員長として尽力いただくことを確認した。
- ・緊急対応について中村先生が土木学会と日本建築学会で共通課題として対応の検討をしているが、今の緊急対応ガイドラインをアップデートすることが喫緊の課題と思う。土木学会日本建築学会のタスクフォースについて、災害連携委員会は災害の時には協力して調査するとの協定があるので、土木学会内の横断だけでなく日本建築学会との協調も議論をしたほうがよいと思う。社会支援部門の主査理事がタスクフォースの委員になる。
- ・本日の議論結果は岡安先生を通じて勝見社会支援主査理事に報告をすることを確認した。
- ・前回の幹事団は継続しているので、松田小委員長、奥村小委員長に情報共有しながら今後の活動等について検討をする。

(4) その他

- ・次回日程→改めて調整する

以上

2026 年 5 月 26 日

水工学委員会
委員長 田中 規夫 様

公益社団法人 土木学会
調査研究部門
主査理事 泉 典洋
(印章省略)

2025 年度 調査研究委員会の活動度評価の結果および
2026 年度調査研究費予算配分について（ご報告）

土木学会 調査研究部門会議は、調査研究部門に所属する委員会の 2025 年度における活動度について、厳正に評価いたしました。

その結果、貴委員会の活動度の評価結果は下記のとおりとなりましたので、ご報告いたします。

なお、ご参考までに 2018 年度～2025 年度の総合評価を併記いたしますとともに、「2025 年度実績の委員会情報発信数」を添付いたします。

記

1. 2025 年度実績の委員会活動度評価結果及び 2026 年度予算配分額

年度	情報発信数			活動度評価 ランク	2026 年度配分 額
	①行事参加者数	②出版物購読者数	合計（①+ ②）		
2025 年度	6,392 人	1,281 人	7,673 人	A	803 千円

- ・ 上記配分額には、調査研究拡充支援金を含みません。
- ・ 活動度評価が C ランクとなった委員会は、研究企画委員会に対して活動内容、情報発信数が低迷した理由及び情報発信数以外で評価して欲しい点を別紙にて報告するものとする。
- ・ 活動度改善に向けて、調査研究部門としても適宜個別にアドバイスさせていただきますので、何かございましたら問合窓口までお知らせください。また、評価結果に異議のある委員会についても問合窓口までご連絡ください。

2. [参考] 活動度評価ランクと予算配分の関係

活動度評価 ランク	情報発信数	予算配分
A	2,500 人以上	予算総額に応じて 55 万円＋情報発信数に応じた金額。ただし A ランクの情報発信数は 2,500 人として計算※。
B	500 人以上 2,500 人未満	
C	500 人未満	一律 55 万円

※A, B ランクの委員会の予算配分方法

予算配分額＝55 万円 ＋ 情報発信数（500 人超分）に比例した金額

$$= 55 \text{ 万円} + (S - 55 \text{ 万円} \times n) \times a / b$$

ここに、S：当該年度の調査研究委員会の総予算額（2025 年度調査研究部門予算から新規制度等調査研究費（重点研究課題）ならびに研究企画委員会予算を除いた千円）

a：当該委員会の情報発信数（A ランクは 2,500 人とする）－500 人

b：全委員会の a の合計（2025 年度：42,743 人）

n：委員会数（現在 29、研究企画委員会は含まず）

3. [参考] 2018 年度～2025 年度の貴委員会の総合評価

年度	総合評価
2018 年度	A
2019 年度	A
2020 年度	A
2021 年度	A
2022 年度	A
2023 年度	A
2024 年度	A
2025 年度	A

問合窓口：事務局 研究事業課長 飯野（minoru@jsce.or.jp）

以 上

水工学のための AI・DX 研究小委員会 設置趣意書

近年、AI（人工知能）および DX（デジタルトランスフォーメーション）の急速な進展は、社会基盤整備のあり方に大きな変革をもたらしており、水工学分野においてもその影響はますます顕著となっている。気候変動に伴う極端水象への対応、流域全体を対象とした土砂マネジメント、老朽化した河川施設の維持管理など、多様かつ高度な課題に対して、従来の経験的知見や物理モデル中心の解析手法に依存した手法だけでは限界が指摘されている。こうした背景のもと、ビッグデータ解析や機械学習、デジタルツインといった先端技術を活用し、解析・予測・運用を高度化し、データ駆動型の意思決定を実現することが強く求められている。

一方で、AI・DX 技術を水工学の実務および研究に適切に導入・活用するための分野横断的に整理・体系化された知見や標準的な適用指針は十分とは言えず、水工学委員会でも各部会や個々の研究者で検討はされているが、分野横断的な議論の場は限定的である。また、技術導入に伴う信頼性の確保や説明可能性、現場適用における課題整理など、解決すべき点も多い。

そこで本小委員会では、AI をはじめとするデジタル技術と DX の水工学分野への応用に関する最新の研究動向や実務事例を幅広く収集・共有し、その有効性と課題について多面的に検討することを目的とする。さらに、産官学の連携を促進するとともに、異分野の知見を融合することで、新たな研究領域の創出と技術の社会実装を加速させることを目指す。具体的には、洪水・河床変動予測の高度化、洪水氾濫・土砂災害のリアルタイム予測、サロゲートモデルを用いた災害リスク評価、さらにはデジタルツインを活用した河川管理・流域マネジメントなど、多様なテーマについて議論を深める。

本小委員会の設置により、水工学における AI・DX 活用に関する基盤的知見を共有するとともに、持続可能で強靱な流域管理の実現に資する知的基盤の構築に貢献する。

設置期間：2026 年 6 月から 3 年間

委員長：竹林洋史 京都大学防災研究所 流域土砂マネジメント研究領域（RiSM）

委員：田端幸輔 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室

委員：南まさし パシフィックコンサルタンツ株式会社 国土基盤事業本部

委員：梶原淳史 株式会社 構造計画研究所 気象防災ビジネス室

委員：旭 一岳 株式会社 RiverLink

委員：山本 道 東北大学大学院 工学研究科 土木工学専攻

委員：久加朋子 富山県立大学 工学部 環境社会基盤工学科

委員：原田大輔 法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科

アドバイザー：風間聡 東北大学大学院 工学研究科 土木工学専攻

1) 土木学会論文集特集号(水工学)編集小委員会委員構成(2026/6/2時点)

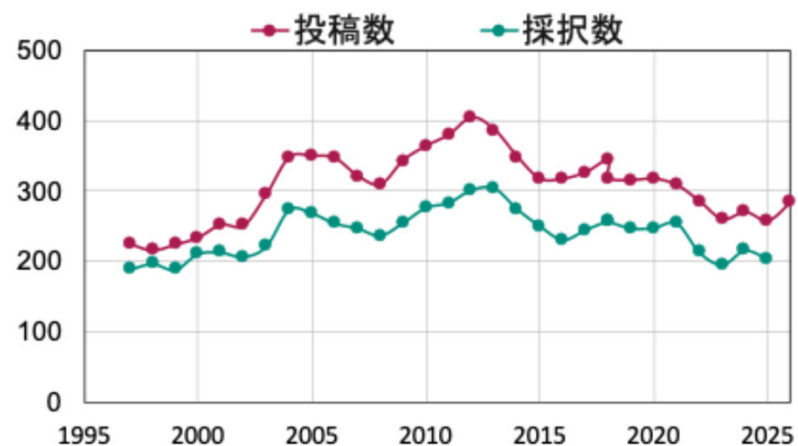
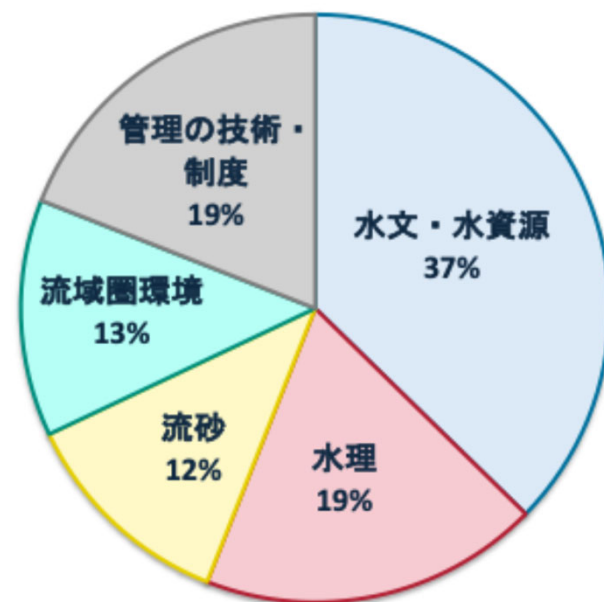
	役職・担当	氏名	所属	部門
1	委員長	田中規夫	埼玉大	-
2	幹事長	戸田祐嗣	名古屋大	-
3	編集幹事長	山田朋人	北海道大	-
1	委員兼幹事	小田僚子	千葉工大	水文・水資源
2	委員兼幹事	小林健一郎	埼玉大	水文・水資源
3	委員兼幹事	谷口健司	金沢大	水文・水資源
4	委員兼幹事	市川温	京大	水文・水資源
5	委員兼幹事	瀬戸心太	長崎大学	水文・水資源
6	委員	山口弘誠	京大防災研	水文・水資源
7	委員	佐山敬洋	京大防災研	水文・水資源
8	委員	風間聡	東北大	水文・水資源
9	委員	鼎信次郎	東工大	水文・水資源
10	委員	芳村圭	東大	水文・水資源
11	委員	手計太一	中央大	水文・水資源
12	委員	一言正之	日本工営	水文・水資源
13	委員	中村要介	三井共同建設コンサルタント	水文・水資源
14	委員	大石哲	神戸大	水文・水資源
15	委員	渡部哲史	九州大	水文・水資源
16	委員	星野剛	寒地土研	水文・水資源
17	委員	岡崎淳史	千葉大	水文・水資源
18	委員	谷口陽子	苫小牧工業高等専門学校	水文・水資源
19	委員	山田真史	京大	水文・水資源
20	委員	稲垣厚至	東京科学大学	水文・水資源
21	委員	丸谷靖幸	九州大学	水文・水資源
22	委員 (EM補佐)	五十嵐善哉	埼玉大学	水文・水資源
23	委員 (EM補佐)	大中臨	山口大学	水文・水資源
24	委員 (EM補佐)	河野誉仁	鳥取大学	水文・水資源
1	委員兼幹事	二瓶泰雄	東京理科大	水理
2	委員兼幹事	川池健司	京大	水理
3	委員兼幹事	杉原裕司	九州大学	水理
4	委員兼幹事	高橋正行	日本大学	水理
5	委員	新谷哲也	東京都立大	水理
6	委員	田端幸輔	国総研	水理
7	委員	佐藤隆宏	電中研	水理
8	委員	山上路生	京大防災研	水理
9	委員	武田誠	中部大	水理
10	委員	赤穂良輔	岡山大	水理
11	委員	重枝未玲	九工大	水理
12	委員	橋本雅和	関西大学	水理

13	委員	岡本陸明	京都大学	水理
14	委員	横嶋哲	静岡大学	水理
15	委員 (EM補佐)	石原道秀	北大	水理
16	委員 (EM補佐)	伊藤毅彦	北大	水理
17	委員 (EM補佐)	大屋祐太	道総研	水理
1	委員兼幹事	川村里実	寒地土研	流砂
2	委員兼幹事	岩崎理樹	北大	流砂
3	委員兼幹事	井上卓也	広島大学	流砂
4	委員	溝口敦子	名城大	流砂
5	委員	吉川泰弘	北見工大	流砂
6	委員	秦夢露	土木研究所	流砂
7	委員	竹林洋史	京大防災研	流砂
8	委員	内田龍彦	広島大	流砂
9	委員	山野井一輝	京都大学	流砂
10	委員 (EM補佐)	佐藤柳言	日本大学	流砂
11	委員 (EM補佐)	松本知将	京大	流砂
12	委員 (EM補佐)	松浦拓哉	山梨大	流砂
1	委員兼幹事	宮本仁志	芝浦工大	流域圏環境
2	委員兼幹事	原田守啓	岐阜大	流域圏環境
3	委員兼幹事	椿涼太	神戸大学	流域圏環境
4	委員	入江政安	大阪大	流域圏環境
5	委員	矢野真一郎	九州大	流域圏環境
6	委員	大槻順朗	山梨大	流域圏環境
7	委員	中山恵介	神戸大	流域圏環境
8	委員	梅田信	日本大学工学部	流域圏環境
9	委員	溝口裕太	土木研究所	流域圏環境
10	委員	片岡智哉	愛媛大学	流域圏環境
11	委員	音田慎一郎	京都大学	流域圏環境
12	委員 (EM補佐)	大野哲之	関西大学	流域圏環境
13	委員 (EM補佐)	小山直紀	中央大学	流域圏環境
1	委員兼幹事	長田健吾	阿南高専	管理の技術・制度
2	委員兼幹事	大原美保	東大	管理の技術・制度
3	委員兼幹事	洗尾欣弘	高知大	管理の技術・制度
4	委員	川越清樹	福島大	管理の技術・制度
5	委員	瀬崎智之	国総研	管理の技術・制度
6	委員	荒木千博	建設技術研究所	管理の技術・制度
7	委員	松田 浩一	バシフィックコンサルタンツ	管理の技術・制度
8	委員	堀江克也	いであ	管理の技術・制度
9	委員	武内慶了	国総研	管理の技術・制度
10	委員 (EM補佐)	吉見和紘	富山県立大学	管理の技術・制度

2) 今年度の投稿状況

284 本の投稿を受理した。

分野	査読分野キーワード	分野別投稿数		投稿数	
		2026	2025	2026	2025
水文・水資源	降水過程・降水予測	106	82	19	22
	積雪・融雪過程			2	3
	大気・陸面水文過程			19	11
	流出・氾濫			38	26
	地下水・浸透			5	3
	水文量の確率・統計解析			13	9
	その他			10	8
水理	管路・局所流	53	54	3	3
	開水路の水理			21	19
	破堤・氾濫の水理			15	17
	流体力・流体振動・波動・密度流			9	12
	その他			5	3
流砂	流砂	34	33	5	10
	河床形態・流路形態			10	6
	河床変動			10	10
	流木・土砂生産			7	6
	その他			2	1
流域圏環境	流域の流出負荷・水質	37	41	2	6
	閉鎖性水域・沿岸域の水理・水質			7	16
	水生生物・魚類			13	8
	生態系管理			7	2
	河道・沿岸域の植生			5	4
	その他			3	5
管理の技術・制度	避難情報、方法	54	48	7	5
	維持管理技術			9	4
	治水計画・水資源計画			12	14
	観測・計測技術			12	8
	ダム管理			7	12
	その他			7	5
	合計	284	258	284	258

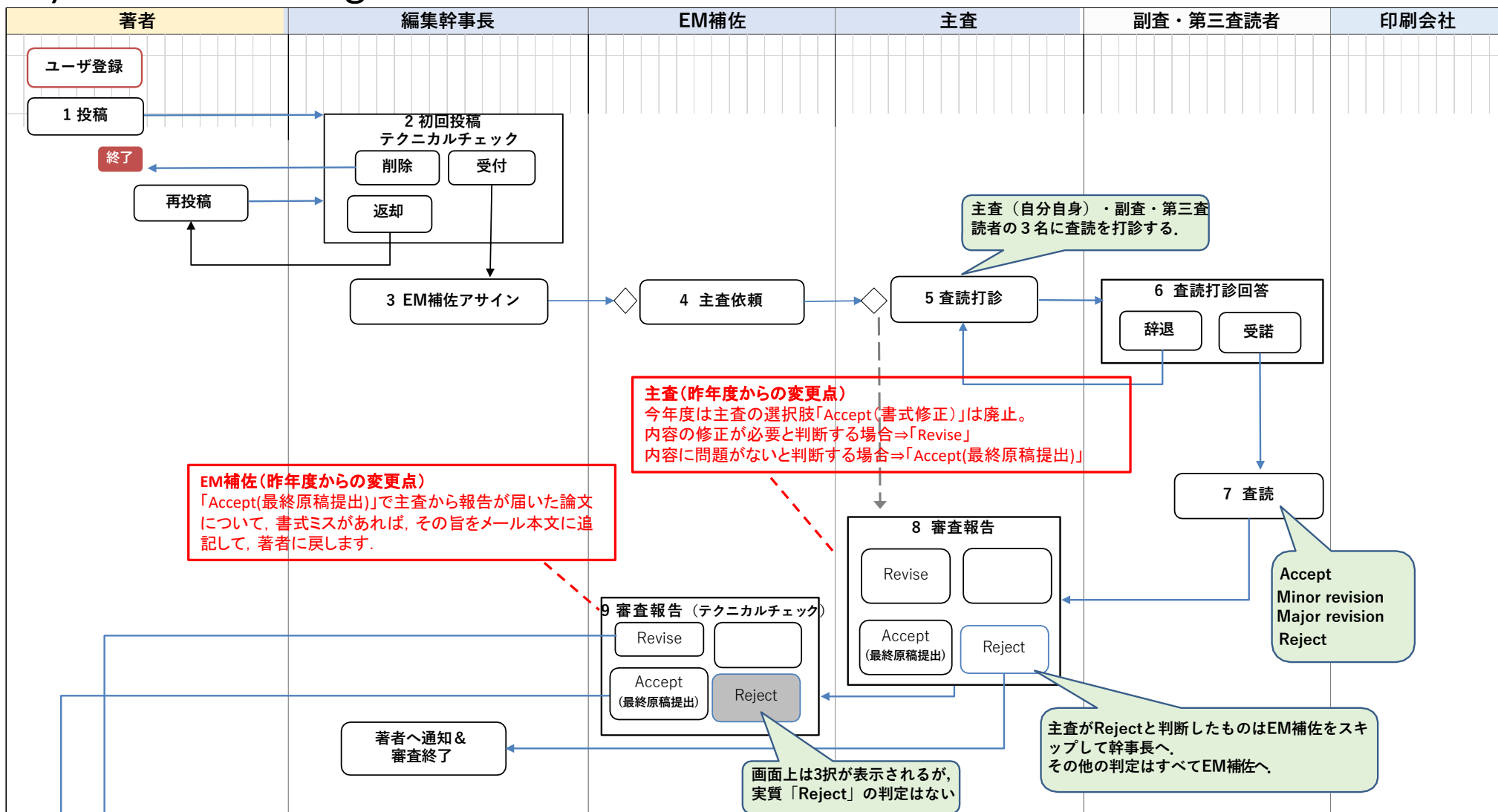


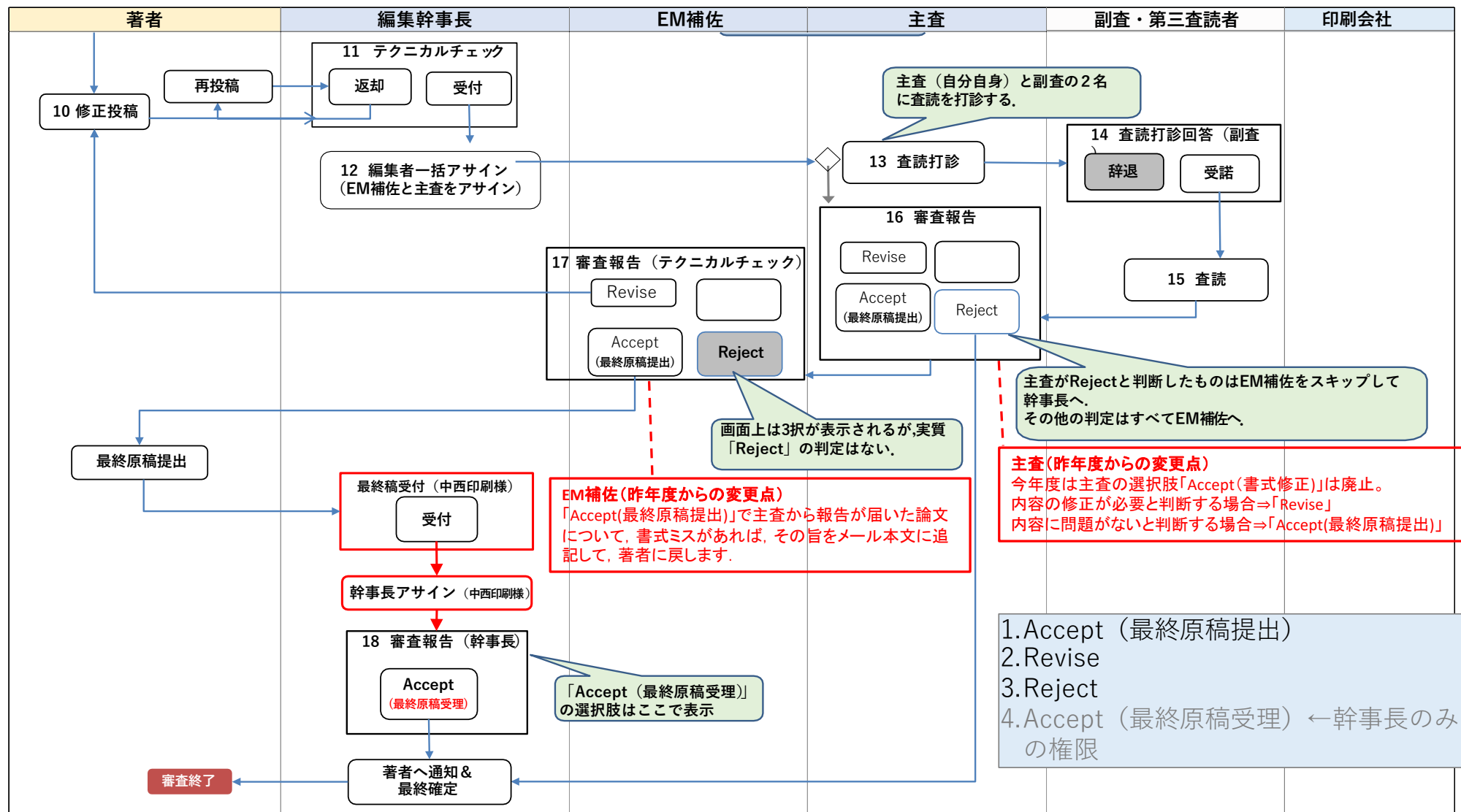
3) 投稿～J-Stage論文公開までの流れ

日程	会議・工程	著者	編集幹事 長	EM 補佐	幹事	主査	副査	第三査 読者	参考（担当）	会場
2026年4月30日(水)	論文投稿受付開始(10:00)	○							著者	
2026年5月20日(水)	第1回編集小委員会 10:00～12:00、編集作業の確認		○	○	○	○	○			zoom
2026年5月27日(水)	論文投稿受付締切(17:00)	○	○						著者→編集幹事長	
2026年6月5日(金)	第1回編集小委員会幹事会（主査・副査の決定）		○		○				編集幹事長・編集幹事	zoom&Google Spread sheet
2026年6月5日(金)午後～6月15日(月)	第2回編集小委員会（メール：査読依頼）		○	○	○	○	○			
	EM補佐に論文割り当て（幹事長がEM補佐をアサイン）		○	○					編集幹事長→EM補佐	
2026年6月7日(日)～6月9日(火)	主査に論文割り当て（EM補佐が主査をアサイン）			○		○			EM補佐→主査	
	主査が副査と相談（確認）のうえ第三査読者を選定					○	○		主査・副査	Google Spread sheet
～6月13日(土)	主査が副査・第三査読者を割り当て （主査が副査と第三査読者をアサイン）					○	○	○	主査→副査・第三査読者	
2026年6月15日(月)	第三査読者の決定期限（主査が副査と第三査読者のアサインを完了）					○	○	○	主査→副査・第三査読者	
2026年7月8日(水)	第1回査読期限（期限以前でも回答が揃ったら順に審議してOK）					○	○	○	主査・副査・第三査読者	
2026年7月9日(火)～7月15日(水)	第1回査読結果取りまとめ & 著者への査読結果配信期限 ※EM補佐はメール文面・宛先の確認を行う。			○		○			主査→EM補佐 （Rejectは編集幹事長へ）	
	第3回編集小委員会（メール：返却論文、要修正論文、掲載論文の決定）		○	○	○	○	○			
2026年8月7日(金)	修正原稿受付締切（修正期間3週間で設定）	○	○						著者→編集幹事長	
2026年8月12日(水)～8月24日(月)	幹事長がEM補佐・主査に修正論文割り当て		○	○		○			編集幹事長→EM補佐・主査	
	主査が副査を割り当て&主査・副査で修正内容確認および判定					○	○		主査→副査 / 主査・副査	
2026年8月24日(月)	第2回査読期限&査読結果取りまとめ期限					○	○		主査→EM補佐	
2026年8月25日(火)～8月28日(金)	著者への第2回査読結果配信（著者の修正・提出期間は1週間以内） ※EM補佐はメール文面・宛先の確認を行う。この時点でAccept（最終原稿提出依頼）の判定であれば、チェックリストの内容も確認する。		○	○					EM補佐→著者	
2026年9月9日(水)	著者への「Accept（最終原稿提出依頼）」配信期限 ※EM補佐はチェックリストの内容とメール文面・宛先の確認を行う。		○	○		○			主査→EM補佐→著者	
2026年9月17日(木)	最終原稿締切	○							著者→校正業者	

日程	会議・工程	著者	編集幹事長	EM 補佐	幹事	主査	副査	第三査読者	参考（担当）	会場
2026年9月18日(金)～	最終原稿確認（校閲業者によるテクニカル チェック）								校正業者	
	著者へ「Accept（最終原稿受理）」の通知 （編集幹事長から）		○						校正業者→編集 幹事長→著者	
	第4回編集小委員会（メール：登載論文，返 却論文の最終決定）		○	○	○	○	○			
2026年9月30日（水）～10月6日（火）	プログラム編成準備		○						編集幹事長	
2026年10月8日（火）～10月14日(木)	プログラム編成，講演番号発行		○		○				編集幹事長・編 集幹事	
2026年10月17日（土）～10月18日（日）	公開に向けたシステム上の作業		○						編集幹事長	
2026年10月19日（月）	プログラム公開		○						編集幹事長	
2026年10月31日(土)～11月2日(月)	講演会資料（PDF）公開に向けた作業		○						編集幹事長	
2026年10月20日(火)～11月2日(月)	表彰選考作業		○						編集幹事長	
2026年11月6日(金)	講演会資料（PDF）公開		○						編集幹事長	
2026年11月30日(月)～12月2日(水)	第71回水工学講演会									北九州
2027年1月下旬～2月上旬	J-Stageホームページ掲載情報のチェック		○						編集幹事長	
2027年2月下旬	J-Stage論文として土木学会論文集特集号 （水工学）を公開									

4) Editorial Manager作業フローの確認





5) 投稿論文フォーマットの確認

土木学会論文集のフォーマットに統一されて4年目となり、昨年度ほどの混乱はないと思いますが、念のため査読時に下記の点に注意してください。

(1) 参考文献の記載方法

REFERENCESの文献は英語表記とし、和文の場合は[]内に英文を併記します。

正式な英語タイトルがないものの表記方法は**著者責任**としており、独自に英訳しても、ローマ字表記としても、受け付けています(土木学会に確認済)。

参考) 土木学会論文集投稿要領 <https://committees.jsce.or.jp/jjsce/node/71>

(2) ページ数制限の変更

REFERENCESの英文併記に伴い、**和文論文のページ数上限**を昨年度までの6ページから**7ページに変更**しました。7ページ数行しかない原稿でも「可」となります。

英文論文の上限は6ページです。

その他

(3) 文字の大きさや日本語表現の指摘に関して

昨年度、著者から査読に関して、

- ①図表中の文字の大きさが小さすぎる
 - ②本質的ではない部分で日本語表現の修正を要求される
- といった意見が執行部に届きました。

①については、土木学会論文集投稿要領にて、フォントサイズの指定はありませんが、「図を作成する際には、仕上がりを考えて線の太さや文字の大きさを考えること。文字は、仕上がりで1.5～2mmとなるのが標準で、また、記号類は小さすぎないように少し大きめに描くようにすること」と記載されていますので、これを踏まえてご指摘ください。

②については、誤解を招く表現であれば修正を要求した方が良いと思いますが、意味が通じるレベルであれば著者責任で判断させてください。

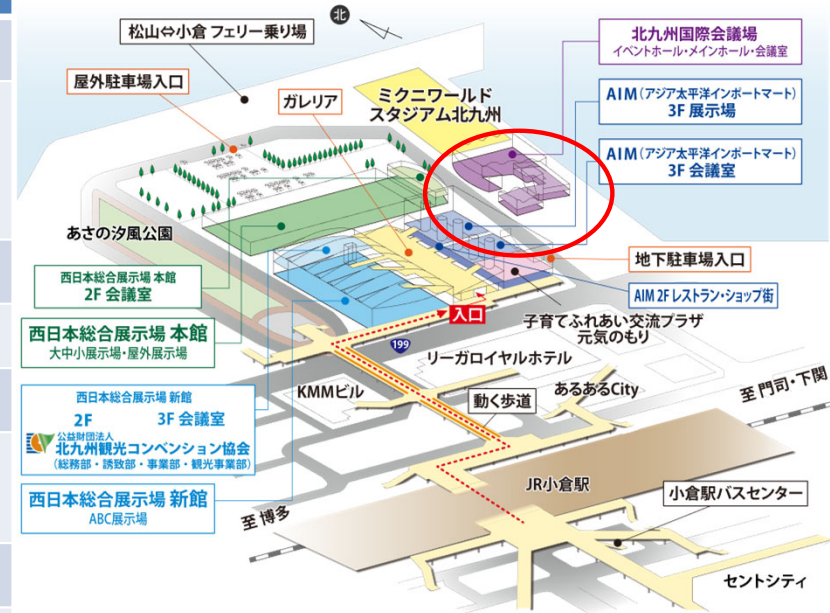
2026年水工学講演会：北九州市（小倉）

- 日程：2026年11月30日(月)～12月2日(水)

※ホテルの予約を早めに行ってください。会場から徒歩5分以内に4軒，小倉駅反対側には多数あり。

- 担当：矢野(九大)・重枝(九工大)・渡部(九大)・丸谷(九大)・巖島(九大)
- 会場の詳細情報：下表

	北九州国際会議場
場所	北九州市小倉北区浅野3-9-30
交通	小倉駅から徒歩5分 福岡空港から最速で30分(新幹線利用) 北九州空港からJR小倉駅まで約33分(高速バス)
会場飲食	可能
懇親会	会場内で開催
借上費用(概算)	150万円程度？
自治体のサポート	北九州市の助成：100名以上，のべ50泊以上 →条件はクリア：100万円の助成が内定
WiFi	無料で利用可能
昼食など	小倉駅内，駅反対側に多数飲食店あり



会場配置案

	北九州国際会議場(会場キャパ: スクール形式)
第1会場	メインホール(524)
第2会場	11会議室(60+α) ※スクールとシアターのミックス
第3会場	国際会議室(156)
第4会場	21会議室(108)
第5会場	32会議室(78+α) ※スクールとシアターのミックス
控え室	入り口ホール横の部屋(無料)
懇親会	イベントホール(立食300まで)
休憩所	Sea Lounge(室料無料. 別途清掃代10000円)
*第6会場	R7講演会では設置された. 今回は未定. 使える部屋は小さめ. 例22会議室:48+α

・予算概算: (R7実績ベースでの概算)

収入: 著者負担金 3.5万円 × 200 = 700万円
 登壇料 0.9万円 × 200 = 180万円
 当日テキスト代 0.6万円 × 60 = 36万円
 広告・展示 80万円
 助成金 100万円 **総額 約1,100万円**
支出: 運営費用(バイト, 謝金, 弁当, 消耗品など) 85万円
 会場費: 160万円
 システム代(EM, JS, CONFITなど)一式 400万円
 管理費(土木学会へ) 310万円 **総額 約960万円**



・講演会全体プログラム(案)

	AM1	AM2	昼休み	PM1	PM2	夕方
11/30(月)	開会式	PS	部会・小委員会 IAHR-JC	PS	アゲール	水工学委員会
12/1(火)	PS	PS	部会・小委員会	河川懇談会	特別講演	懇親会
12/2(水)	PS	PS	部会・小委員会	PS	PS・閉会式	
PS: Parallel Session 7枠×5部屋=35セッション →不足の場合は第6会場を追加します。 共通セッションの開催は未定.						

・特別講演:

- 1) 松木洋忠様: 松木技術士事務所. 元内閣府政策統括官付(科学技術政策担当)参事官補佐、国土交通省遠賀川河川事務所長、国総研河川研究部長などを歴任. ・・遠賀川のよもやま話など(内諾済み)
- 2) 検討中: 川辺川ダム関連, 中村哲さん関連, など九州関連を模索中.

・今後の予定:

- ・北九州市の助成申請(内定済み)
- ・アルバイト学生の雇用(九工大の学生を中心に)
- ・企業協賛・展示の募集

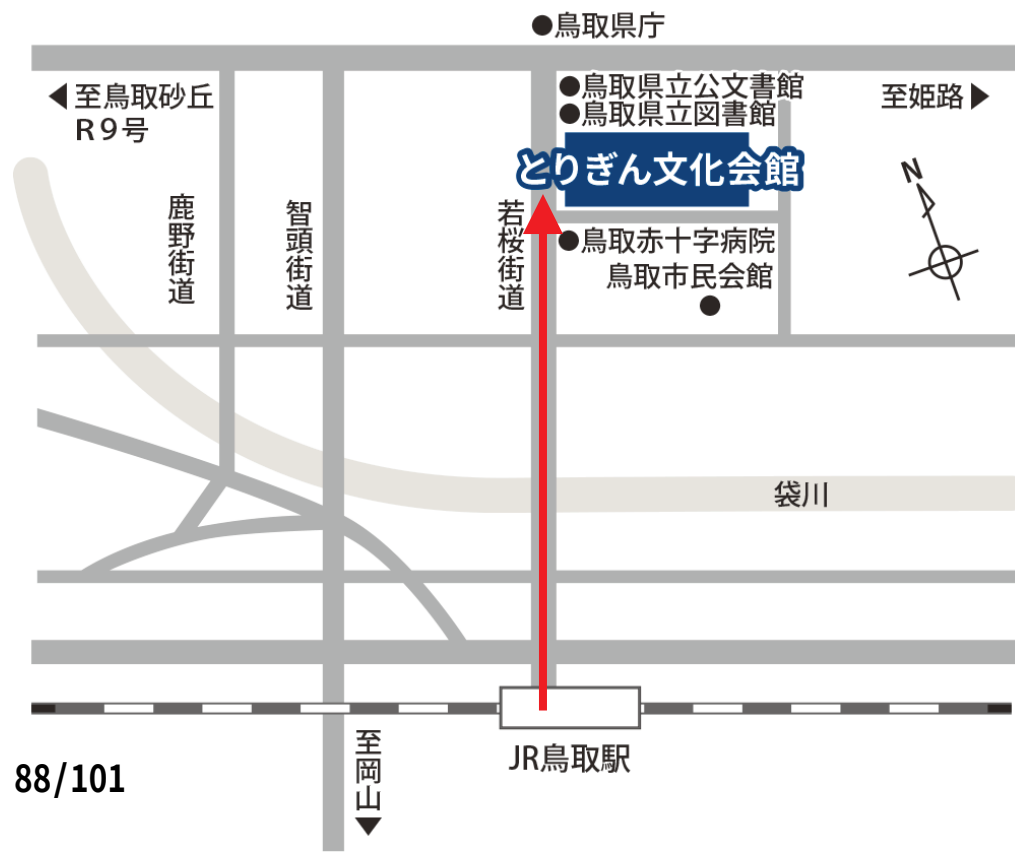
など

2027年度水工学講演会について

1. **日程(案)：2027年12月8日(水)～10日(金)**
※三日連続（+前日準備）の会場確保はこれ以外難しい
2. **会場(案)：とりぎん文化会館**
※第42回水講（1998），第65回海溝（2018）の会場
3. **担当：三輪・梶川・和田（鳥大）** + 鳥大水系教員

4. 会場アクセス

- ・ JR鳥取駅より
徒歩20分
バス6～7分
- ・ 鳥取コナン空港より
タクシー15分
空港連絡バス15分



5. 会場の配置案

会場	施設名	収容	備考
第1会場	小ホール	500	開会式，授賞式，論文賞特別講演，特別講演，アゲールシンポジウム
第2会場	第1会議室	199	水工学委員会(仮)
第3会場	第2会議室	108	IAHRジャパンチャプター(仮)，河川懇談会(仮)
第4会場	第4会議室	63	
第5会場	第5会議室	30	狭いので椅子で対応
第6会場	第6会議室	30	狭いので椅子で対応
控え室	第3会議室	円卓32	第7，8会議室（和室）も候補
交流会	すなば珈琲	max150	同一敷地内レストラン，立食
予備会場	展示室		12m×24.5m，設営・撤収が必要



外観



- Free Wi-Fi
- 飲食可（一部制限あり）
- 駐車場（無料）

フリースペース（入り口ホール）⇒受け付け設置

6. 講演会場等 (1/2)



第1会場（小ホール，500）



第2会場（第1会議室，199）



第3会場（第2会議室，108）



第4会場（第4会議室，63）

6. 講演会場等 (2/2)



第5会場 (第5会議室, 30席)



第6会場 (第6会議室, 30席)



交流会場 (立食, 最大150人)



展示室 (12m × 24.5m, 仕切可)

7. 準備状況

1	とりぎん文化会館：12月7日（火）～12月10日（金）仮予約
2	会場費の見積：約100万円（4日間，備品使用料含む）
3	会場予約，助成金等に係る担当者と第1回打ち合わせ実施
4	学術会議開催助成の情報収集：延べ宿泊数によって助成金変動

8. その他

- 1) 特別講演講師の人選，契約等
- 2) 会場設営・運営等必要人員の検討
- 3) 今後の水講学委員会側の窓口（部署，担当者）
- 4)

第62回(令和9年度) 水工学に関する夏期研修会(案)

1. 日程候補 :
 - ① 2027年8月20～21日(木・金)
 - ② 2027年8月26～27日(木・金)
 - ③ 2027年9月3～4日(木・金)
2. 会場 : キオクシアアイーナ いわて県民情報交流センター
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7 - 1
候補 会議室803(150名) or 会議室804(300名) or 研修室812(150名)
のうち2部屋
3. 開催形式 : 対面+(オンデマンド検討中?)で2日間 (9～17時)
4. 参加定員 : 今年と同様の120名×2コース
5. 参加費 : 一般16,000円, 学生10,000円 (今年同様)
(参考) 2025年オンデマンド : 18,000円, 学生12,000円
6. 交流会 : 過去の参加人数や方法などの情報収集して, 今後検討する
7. 担当者 : Aコース : 川越 (福島大)
Bコース : 小笠原・松林 (岩手大)

要調整

8. テーマ：検討中

(仮) 復興の共創に向けた河川・海岸工学の新しい技術と応用

調整中 第2回水工委員会(12月)まで確定予定

年度	テーマ	主催
2026	頻発・激甚化する流域・沿岸災害に関する調査・解析と防災を考える	金沢大学
2025	水工学のパラダイムシフトをもたらす技術・研究	九州大学
2024	水工学に関するモニタリング技術と活用	大阪公立大学
2023	水工学に関する国際的課題，今後我が国で取り組むべき課題	北海道大学
2022	A.頻発する豪雨災害の現状と複合災害への備え B.波・流れと地盤の複合現象	東京大学
2021	A.激甚化する豪雨災害に備える河川技術 B.海岸災害対策におけるこれからの論点と適応技術	オンライン・ オンデマンド
2020	A.激甚化する豪雨災害に備える河川技術	オンライン
2019	A.気候変動適応に向けた水工学・防災技術 B.伊勢湾台風60年：高潮・高波・沿岸防災の過去・現在そして将来	名古屋工業大学
2018	A.新しい技術の河川工学への応用 山口大学 B.沿岸域における環境研究の変遷とこれから	山口大学
2017	A.河川の維持管理と流域の保全 大阪大学 B.海岸・港湾における構造物の維持管理と海岸保全	大阪大学

9. 講師の先生方と時間割

日時		Aコース	Bコース
1日目	9:00-10:30		
	10:45-12:15		
	13:15-14:45		
	15:00-16:30	かわまちづくり関連	
2日目	9:00-10:30		
	10:45-12:15		
	13:15-14:45		
	15:00-16:30		

調整中
第2回水工委員会(12月)まで確定予定

10. 参考情報 (キオクシアアイーナ いわて県民情報交流センター)



区 分			(午前) 9:00～ 12:00	(午後) 13:00～ 17:00	(夜間) 17:30～ 21:30	(午前・午 後) 9:00～17:00	(午後・夜間) 13:00～ 21:30	(午前～夜 間) 9:00～21:30
7 階	会議室701	スクール型36名(3人掛) ／73㎡	3,520	4,770	6,590	8,620	11,350	15,090
	会議室702	スクール型36名(3人掛) ／73㎡	3,520	4,770	6,590	8,620	11,350	15,090
	会議室703	スクール型36名(3人掛) ／73㎡	3,520	4,770	6,590	8,620	11,350	15,090
8 階	会議室801 (特別)	楕円形テーブル24名 ／98㎡	5,220	7,040	9,860	12,710	16,910	22,130
	会議室802	スクール型36名(3人掛) ／73㎡	3,520	4,770	6,590	8,510	11,350	14,980
	会議室803	スクール型150名(3人掛) ／253㎡	12,020	16,110	22,580	29,050	38,700	50,730
	会議室804 (AB一体利用)	スクール型300名 (3人掛) ／391㎡	20,770	27,680	38,910	50,050	66,610	87,380
	会議室804 (A)	スクール型150名(3人掛) ／190㎡	10,390	13,840	19,460	25,030	33,310	43,690
	会議室804 (B)	スクール型150名(3人掛) ／190㎡	10,390	13,840	19,460	25,030	33,310	43,690
	会議室805	スクール型16名 (2人掛) ／36㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	会議室806	スクール型16名 (2人掛) ／36㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	会議室807	スクール型16名 (2人掛) ／36㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	会議室808	スクール型16名 (2人掛) ／36㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	会議室809(和室)	18名 (20畳) 板の間2畳含む	2,160	2,840	4,080	5,100	6,930	9,070
	研修室810	スクール型36名(3人掛) ／77㎡	3,630	4,870	6,930	8,970	11,820	15,660
	研修室811	スクール型36名(3人掛) ／73㎡	3,520	4,770	6,590	8,510	11,350	14,980
	研修室812	スクール型150名(3人掛) ／258㎡	12,260	16,350	22,810	29,390	39,150	51,420
	研修室813	スクール型16名 (2人掛) ／34㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	研修室814	スクール型16名 (2人掛) ／34㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	研修室815	スクール型16名 (2人掛) ／34㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	研修室816	スクール型16名 (2人掛) ／34㎡	1,590	2,160	3,060	4,080	5,220	7,040
	研修室817	スクール型20名 (2人掛) ／40㎡	2,160	2,840	4,080	5,100	6,930	9,070

(マリオス 盛岡地域交流センター)



▶ 会議室料金表

使用料は、各室上段が平日料金、下段が土日祝日料金となっております。(単位:円 [税抜き])
税抜価格を表示しております。使用料に消費税等相当額を加算した金額をお支払いいただきます。

室名	面積 (㎡)	定員 (人) ※1	9:00 ~12:00	9:00 ~17:00	9:00 ~21:00	13:00 ~17:00	13:00 ~21:00	18:00 ~21:00	延長 (1時間分)
180	69	36	10,200	23,400	38,500	13,500	28,600	15,400	3,600
			12,240	28,080	46,200	16,200	34,320	18,480	4,320
181	122	72	20,400	46,800	77,000	27,000	57,200	30,800	7,200
			24,480	56,160	92,400	32,400	68,640	36,960	8,640
180・181連結	191	108	30,600	70,200	115,500	40,500	85,800	46,200	10,800
			36,600	84,240	138,600	48,600	102,960	55,440	12,960
182	65	30	10,200	23,400	38,500	13,500	28,600	15,400	3,600
			12,240	28,080	46,200	16,200	34,320	18,480	4,320
183 ~186	1室使用	27	10,200	23,400	38,500	13,500	28,600	15,400	3,600
			12,240	28,080	46,200	16,200	34,320	18,480	4,320
	2室連結	54	20,400	46,800	77,000	27,000	57,200	30,800	7,200
			24,480	56,160	92,400	32,400	68,640	36,960	8,640
	3室連結	81	30,600	70,200	115,500	40,500	85,800	46,200	10,800
			36,720	84,240	138,600	48,600	102,960	55,440	12,960
	4室連結	108	40,800	93,600	154,000	54,000	114,400	61,600	14,400
			48,960	112,320	184,800	64,800	137,280	73,920	17,280
187	116	42	15,900	36,800	60,800	21,200	45,100	24,200	5,300
			19,080	44,160	72,960	25,440	54,120	29,040	6,360
188	173	108	26,200	61,000	101,000	34,800	74,800	40,100	8,800
			31,440	73,200	121,200	41,760	89,760	48,120	10,560

※1. 定員は、スクール形式時に長机(180cm)に3名掛けした場合のもので(講師席を除く)。机の配置変更につきましては、変更可能ですが、ご利用後は復旧をお願い致します。

(応募様式2)

ニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52カ所」に「盛岡市」が選ばれました！！

「第 31 回水シンポジウム 2027in みえ」キックオフ打合せ メモ

日時：令和 8 年 5 月 19 日（火）15:00～16:00

場所：三重県庁

出席者（敬称略）：

喚阿、上田、水谷（以上、三重県）、
松本、山田、岡田（以上、中部地整・本局）、岡本、杉山（以上、三重河川）、
武田（中部大）、戸田（名古屋大）

1. 過去の水シンポのプログラム、実施委員会資料等の確認

- 徳島（2026）、山梨（2025）、長野（2024）開催に関する資料を確認した。
- 水シンポ 2026in とくしまの最後に次回開催県からの挨拶がある。三重県の事務局から参加・発表する必要がある。
- 予算は負担金、助成金、協賛金などで確保。
- 負担金の過去の実績は土木学会水工学委員会（50 万）、開催県、開催市、地方整備局（各 20 万）。その他の団体からの負担金をどこまで募るかは、開催地によって異なる。
- 助成金として、河川財団河川基金（100 万）、防災研究協会（20 万）は水工学委員会より申請。その他（開催地の建設関係協会などから）の助成金・協賛金をどこまで募るかは、開催地によって異なる。
- シンポジウムは無料。懇親会は有料。現地見学会は有料（現地見学会費用は当日集金）。
- 以前の水シンポで行われていた分科会形式は、最近は実施されていない。

2. 第 1 回実行委員会にむけて

- 10 月初旬までをめぐりに開催できると良い。
- 規約、実行委員会構成、事務局構成、日程、メインテーマ、予算計画を決める必要がある。
- 三重県でシンポジウムの候補となる会場の予約は 1 年前から受付開始。
- シンポジウムの会場規模として、過去の水シンポでは 500 名程度入る会場で実施。津開催と伊勢開催が考えられるが、津開催の方向で検討することとした。なお、シンポジウムを津で開催する場合も、テーマとして宮川、櫛田川や伊勢神宮に関わる話題で構成することや、現地見学先として伊勢の現場を対象とすることも問題ない。
- 今後のメールのやり取りについて、三重県：上田、水谷、中部地整：松本、山田、学：武田、戸田が窓口で進める。

以上

R8/6/2現在

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	備考
収入													
調査研究費	¥1,127,000	¥680,000	¥1,056,000	¥1,038,000	¥953,000	¥986,000	¥934,000	¥951,000	¥881,000	¥858,000	¥828,000	¥803,000	(決定通知反映)
拡充支援金	¥1,981,000	¥1,612,000	¥1,372,000	¥3,570,000	¥4,178,000	¥3,305,000	¥5,867,000	¥4,125,000	¥2,338,000	¥3,527,000	¥2,848,000		
合計	¥3,108,000	¥2,292,000	¥2,428,000	¥4,608,000	¥5,131,000	¥4,291,000	¥6,801,000	¥5,076,000	¥3,219,000	¥4,385,000	¥3,676,000		

支出													
水シンボ	旅費	¥289,440	¥448,656	¥1,001,586	¥435,654	¥314,757	¥0	¥81,509	¥350,429	¥248,508	¥54,522	¥205,684	
	他	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥823,868	¥0	¥500,000	¥533,411	¥557,074	¥500,000	¥501,800	
親委員会	旅費	¥2,428,595	¥1,328,050	¥819,340	¥954,045	¥1,670,761	¥0	¥394,378	¥12,780	¥332,750	¥116,895	¥49,193	
& 編集小	他	¥64,120	¥265,754	¥112,384	¥625,517	¥604,244	¥0	¥2,693,680	¥456,696	¥227,015	¥102,019	¥191,499	
部会・小	旅費					¥439,237	¥0	¥57,960	¥570,180	¥270,877	¥86,730	¥387,838	
委員会	他	¥46,656	¥18,360	¥189,842	¥402,396	¥293,184	¥0	¥278,300	¥2,094,316	¥1,495,700	¥2,199,945	¥1,711,765	河川シンボ黒字→J-Stage化等
その他		¥63,982	¥26,303	¥98,788	¥0	¥0	¥139,009	¥281,316	¥100,231	¥50,115	¥83,526	¥465,110	
合計		¥3,092,793	¥2,287,123	¥2,421,940	¥2,617,612	¥4,146,051	¥139,009	¥4,287,143	¥4,118,043	¥3,182,039	¥3,143,637	¥3,512,889	

残高 ¥36,961 ¥1,241,363 ¥163,111

水工学講演会収支まとめ

2019		2023			
会計科目	項目	金額	単価	数量	備考
事業収益	1 一般・学生 参加費 @	0			
	2 参加費 @	0			
	3 当日分 テキスト代 @	522,000	6,000	87	
	4 事前分 テキスト代 @				
	5 テキストに伴う著者負担金	6,860,000	35,000	196	
	6 広告（業界案内）・スポンサー収	600,600	54,600	11	
	7 その他収入 a（企業製品展示）	100,000	50,000	2	
	8 その他収入 b	1,960,000	10,000	196	登壇料
		10,000	10,000	1	訂正記事掲載料
		30,000	10,000	3	通常号登壇料
事業収益合計A		10,082,600			
寄付金等	9 寄付金等	0			
	寄付金等合計B	0			
収入合計		10,082,600			

会計科目	項目	金額	単価	数量	備考
臨時雇人給	1 アルバイト代	423,620			
旅費交通費	2 講師・司会者への旅費				
	3 会議旅費・職員旅費	51,920			
備品消耗品費	4 受付用文房具・会場看板など	60,963			
	5 DM発送代等の通信費・連絡費な	3,884			
手数料	6 各種手数料（振込手数料等）など				
	7 会場使用料	1,531,000			
賃借料	8 付置備品使用料				
	9 その他賃借料	2,400			駐車場代
会議費	10 講師・司会・委員等の打合せ費	126,991			井当代
広報宣伝費	11 ポスター作成費				
報告書等製作費	12 テキスト発行費				
図書等仕入費	13 テキスト買上費				
	14 テキスト以外の教材費				
謝金・賞金	15 講師・司会者への謝礼金				
	16 その他				
システム料使用料		1,749,165	4,200	260	昨年は266件の投稿、年間保守料120,000円
事業諸経費	18 その他支出 a. (J-STAGE対応)	800,000			昨年は214件で812,130円 ※アイワード
	19 その他支出 b. (CONFIT)	627,000	750	200	利用料240件掲載として、 ①基本料600,000円、EMデータ交換作業量80,000円、原稿スタンピング対応150,000円、掲載率5%割引、
	20 その他支出 c. (印刷費)	0			
	21 その他支出 d. (印刷費)	0			
	22 その他支出 e. (印刷費)	39,600			大應 賞状製作対応
	23 その他支出 f. (論文チェック)	455,180			昨年は214件で486,640円 ※中西印刷
	24 その他支出 g. ()	1,870			ビブスクリーニング代
	25 予備費				
オンライン関係		0			？
支出合計		5,873,593			
管理費相当額A		3,024,780			
管理費相当額B		0			
収支差額		1,184,227			

2024			
金額	単価	数量	備考
0			
0			
510,000	6,000	85	昨年実績程度
7,560,000	35,000	216	昨年実績程度(前回積算では213)
655,200	54,600	12	昨年実績程度
1,944,000	9,000	216	登壇料(前回積算では213)
27,000	9,000	3	通常号登壇料
10,696,200			
0			
0			
10,696,200			

金額	単価	数量	備考
350,000			
80,000			職員1名(3泊4日)
24,000			入口の看板一つ設置
0			
1,768,577			会場費：176.8万円
			スクリーン外部資料・ネット回線
315,900			井当代
20,000			2022年実績
1,379,400	4,200	270	昨年は260件の投稿、年間保守料120,000円
1,105,335			昨年度実績相当
			利用料216件掲載として、 ①基本料600,000円、②利用料、③EMデータ交換作業量80,000円、④原稿スタンピング対応150,000円、⑤論文発表交換作業20,000円、⑥作業レポート作成100,000円、掲載率10%割引(①～⑤について)、
1,114,080	750	216	
0			
0			
40,000			大應 賞状製作対応
600,000			昨年は196件 ※中西印刷
0			？
6,797,292			
3,208,860			
0			
690,048			

2025			
金額	単価	数量	備考
0			
0			
384,000	6,000	64	昨年実績85
7,105,000	35,000	203	前回積算では216
546,000	54,600	10	昨年実績程度
250,000	50,000	5	前回(2023年)は2件
1,827,000	9,000	203	登壇料(前回積算では216)
63,000	9,000	7	通常号登壇料
10,175,000			
750,000	750000		謝礼金(福島県と郡山コンベンションビューロー)
750,000			
10,925,000			

金額	単価	数量	備考
476,400			
—	20,616	—	実行委員 旅費交通費(委員会予算使用)
50,344			職員1名(3泊4日)
—	8,158	—	ケーブル、アダプタ、講義室利用料 立替費(委員会予算使用)
4,020			備品発送費
576,360			けんしん文化センター(244,900円)、中央公民館・公会堂(331,460円)
7,000			バス代
269,100			井当代
—	78,692	—	アジュールシンポジウムと特別講演会分 新委員会予算での支出のため、本予算の支出には含めない
1,366,200	4,200	258	昨年は270件の投稿、年間保守料120,000円
1,105,335			
1,005,428	750	203	利用料203件掲載として、 ①基本料600,000円、②利用料、③EMデータ交換作業量80,000円、④原稿スタンピング対応150,000円、⑤論文発表交換作業20,000円、⑥作業レポート作成100,000円、掲載率10%割引(①～⑤について)、
1,560			資料印刷費
48,598			大應 参加証
22,000			大應 賞状
421,190		203	昨年は216件 ※中西印刷
—	167,750	—	正賞 メダル 道学術文化事業での支出のため、本支出に含めない
0			
5,353,535			
3,052,500			
37,500			
2,481,465			